

---

# 小美玉市総合計画 市民アンケート調査 結果報告書

---

---

0. 調査概要	p1
1. 回答者について	p5
2. 小美玉市への愛着などについて	p6
3. 市の住みやすさについて	p9
4. 市の評価について	p12
5. 生活環境について	p18
6. 産業について	p21
7. 保健・医療・福祉について	p23
8. 教育・文化・スポーツについて	p25
9. 市におけるSDGsについて	p26
10. 行財政・市民参加について	p30

---

小美玉市  
令和3年度

# 0. 調査概要

## (1)目的

本調査は、小美玉市の市政の指針となる「小美玉市第2次総合計画」の策定にあたり、市民の声を生かしたまちづくりを進めていくため、これまでの取り組みに対する意見をうかがうことを目的とします。

## (2)調査方法

### 【対象】

市内在住の18歳以上の市民 3,000名

### 【調査期間】

令和3年8月18日(水)～令和3年9月18日(土)

### 【配布方法】

60歳未満：ハガキ送付によるQRコードの配布・Webサイトでの回収

60歳以上：郵送による配布・回収

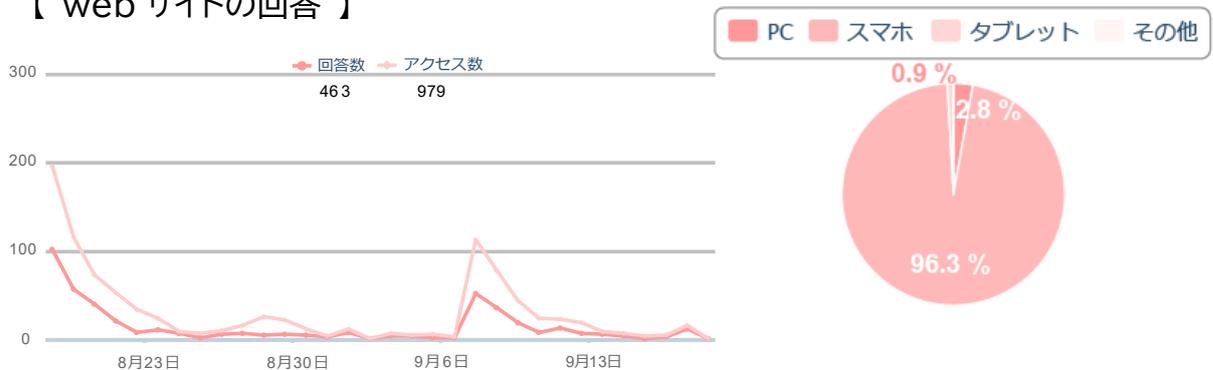
### 【回答者数】

回収数： 627票（内追加調査：3票）

有効回収数： 627票

有効回収率： 20.8% ※追加調査分は含まない

### 【webサイトの回答】



### (3)アンケート項目

<b>1. 回答者について</b>		
問1	性別	6
問2	年齢	6
問3	家族構成	6
問4	職業	6
問5	お住まいの地区	6
問6	居住年数	6
<b>2. 市への愛着などについて</b>		
問7	市への愛着の有無	7
問8	市のおすすめ度	7
問9	市をよくする活動への参加意欲	8
問10	市をよくする活動をしている人への感謝・応援の気持ち	8
<b>3. 市の住みやすさについて</b>		
問11	住みやすさ	9
問12	住み続けたいか	9
問12①	住み続けたい理由	10
問12②	住み続けたくない理由	11
<b>4. 市の評価について</b>		
問13	基本施策の現在の満足度、今後の重要度 1. みんなの力で磨くまちづくり	13
問13	基本施策の現在の満足度、今後の重要度 2. 人を育てる学びの場づくり	14
問13	基本施策の現在の満足度、今後の重要度 3. 誰もがいきいきと暮らせる社会づくり	15
問13	基本施策の現在の満足度、今後の重要度 4. 仕事と暮らしを創造する環境づくり	16
問13	基本施策の現在の満足度、今後の重要度 5. 安全・安心な生活を支える体制づくり	17
<b>5. 生活環境について</b>		
問14	利用しやすい公共交通	18
問15	自然災害に備えるために見直しが必要なもの	19
問16	自然環境を守るために大切なこと	20
<b>6. 産業について</b>		
問17	今後の産業振興や新たな産業づくり	21
問18	観光・交流振興に大切なこと	22
<b>7. 保健・医療・福祉について</b>		
問19	子育てしやすい環境	23
問20	医療、地域福祉、障がい者福祉、高齢者福祉に何が大切か	24
<b>8. 教育・文化・スポーツについて</b>		
問21	子ども達の学校教育の充実、市民の生涯学習活動の活性化	25
<b>9. 市における SDGs について</b>		
問22	SDGsの認知具合	26
問23	17の目標の関心度	27
問24	SDGs 推進のためにすべきこと	29
<b>10. 行財政・市民参加について</b>		
問25	市民の立場からどのようなことができるか	30
問26	自由意見	31

#### (4)アンケート結果概要

### POINT 1 p6

市に愛着をもっている人は

# 59.7%

30歳代以外は半数を超えて  
愛着を持っている。

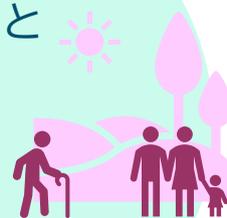


### POINT 2 p8

市に住み続けたいと  
思っている人は

# 71.3%

地区別では玉里地区が  
最も多い76.1%。



### POINT 3 p9

住み続けたい理由は

## 1位「土地や家がある」

2位「永年住み慣れている」

3位「この土地への愛着がある」



生活の基盤が築かれて  
いることが大きな理由。

### POINT 4 p10

住み続けたくない理由は

## 1位「日常生活が不便」

2位「交通が不便」

3位「発展の可能性が乏しい」



生活利便施設の立地とそれらを  
結ぶ交通網が求められている。

### POINT 5 p12

基本施策の満足度が高いのは

## 1位「水の供給」

2位「広報おみたま」

3位「救急・消防体制の  
迅速な対応」



### POINT 6 p12

基本施策の重要度が高いのは

## 1位「医療施設・体制」

2位「交通安全対策」

3位「犯罪の少ないまちづくり」



POINT 7 p18

利用しやすい公共交通に大切なのは

1位「コミュニティバス」

2位「民間バス路線の拡大」

3位「デマンド交通の整備」

若い人ほどバス、電車、高齢になるほどデマンド交通を重視



POINT 8 p21

今後の産業振興に大切なのは

1位「後継者の育成」

2位「中小企業の支援」

3位「地産地消の推進」



POINT 9 p24

医療、地域福祉等に大切なのは

1位「救急医療体制」

2位「医療体制(かかりつけ医)」

3位「介護保険サービス」



POINT 10 p25

子ども達の学校教育等に大切なのは

1位「自ら学び、考え、行動する力」

2位「社会を生き抜く力」

3位「安全な教育環境」



POINT 11 p27

SDGsで関心の高い項目は

1位「すべての人に健康と福祉を」

2位「平和と公正をすべての人に」

3位「住み続けられるまちづくりを」



POINT 12 p30

市民の立場から出来ることは

1位「環境ボランティア」

2位「人権を尊重し合うこと」

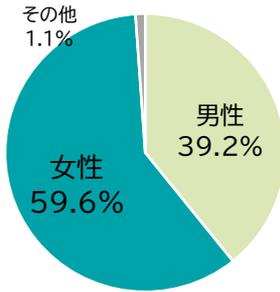
3位「自治会などの地域の活動」





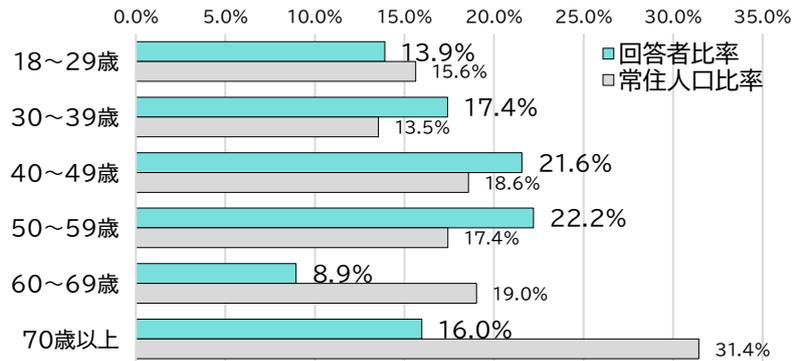
# 1. 回答者について(問1～問6)

## 問1 性別

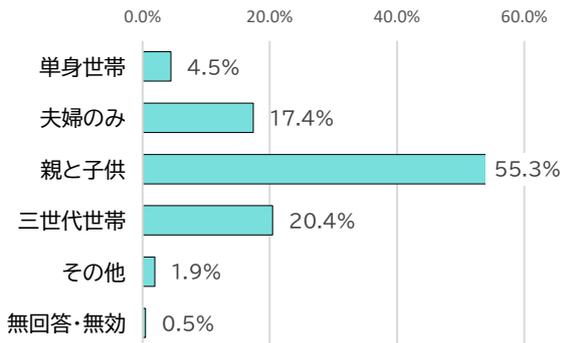


## 問2 年齢

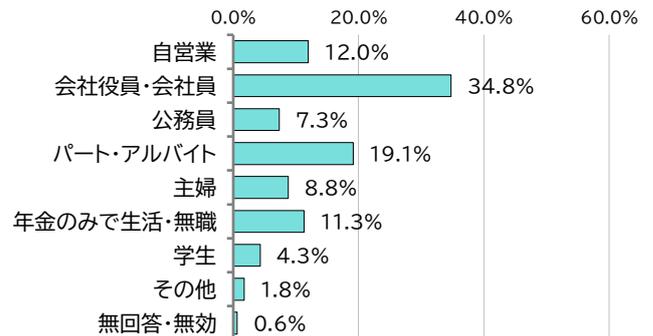
60歳未満は年齢が上がるにつれて回答者が多い傾向。



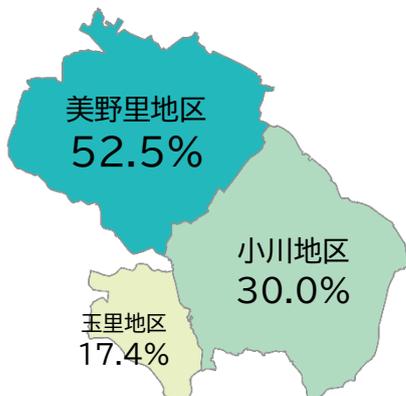
## 問3 家族構成



## 問4 職業

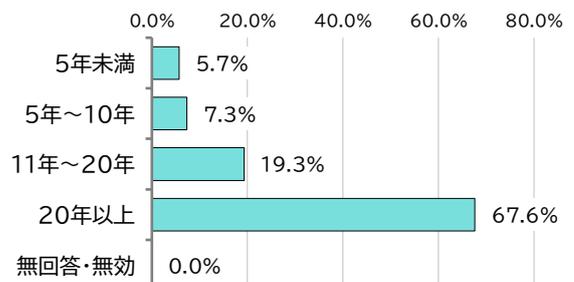


## 問5 お住いの地区



## 問6 居住年数

居住年数が20年以上の回答者が約70%。

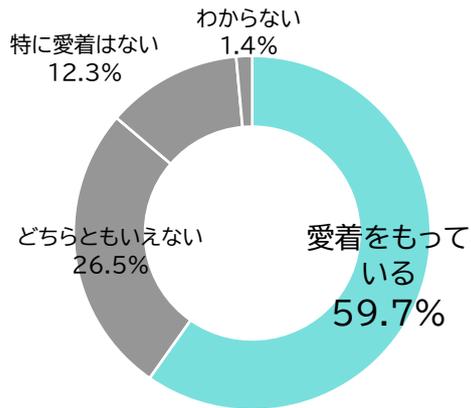


## 2. 小美玉市への愛着などについて

### 問7 市への愛着の有無

市に愛着をもっている人が**59.7%**

年齢別にみると、30歳代以外は「市に愛着をもっている」人の割合が半数を超えている。



年齢別「市に愛着をもっている」の割合

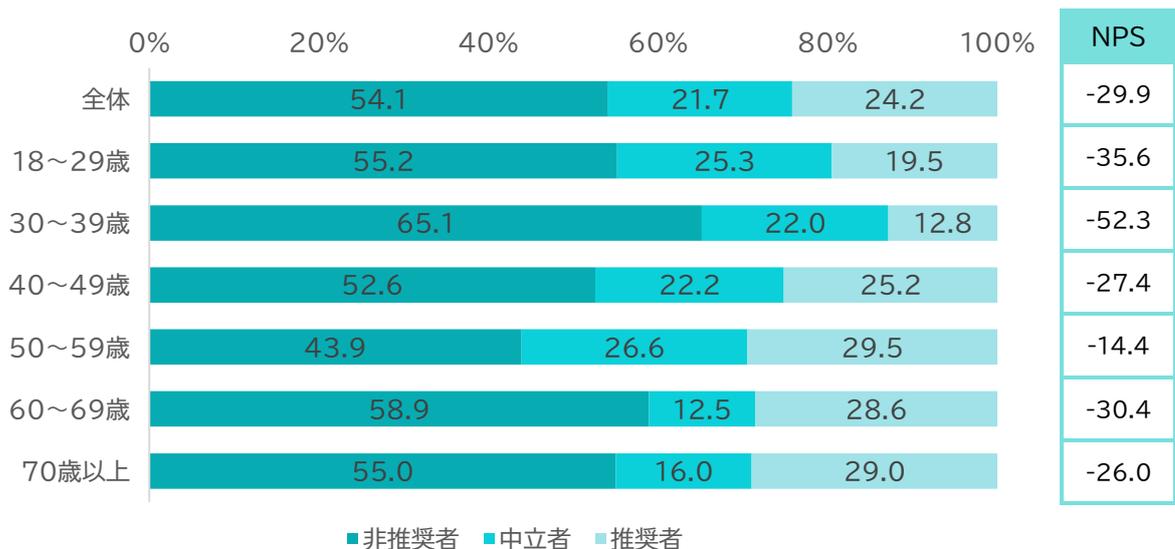
年代	割合
～29歳	59.8%
30歳代	45.9%
40歳代	64.4%
50歳代	61.9%
60歳代	58.9%
70歳～	65.0%

### 問8 市のおすすめ度（NPS※で評価）

市のおすすめ度について10点から0点までの点数をつけてもらい、その結果をNPSという得点にした。

年代別にみると30歳代のNPSが低く-52.3という結果となった。

全体のNPSは **-29.9**



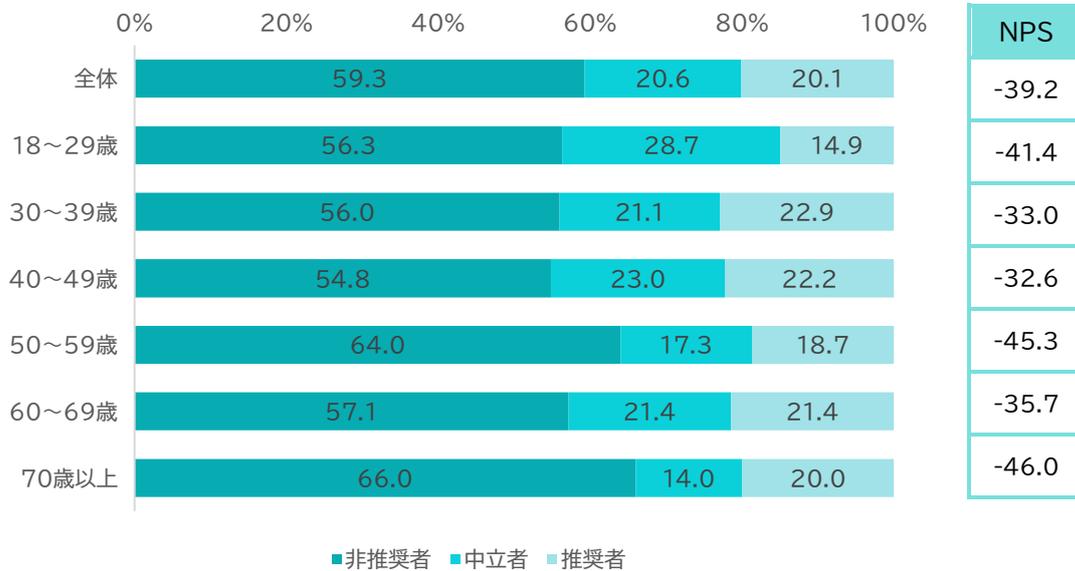
※「Net Promoter Score(ネットプロモータースコア)」の略で、ブランドの力を計測するための指標です。10点から0点の間で意欲の強さを尋ね、8点以上を「推奨者」、5点以下を「批判者」とし、NPSの値は「推奨者」の割合から「非推奨者」の割合を引いて算出できます。

### 問9 市をよくする活動への参加意欲

市をよくする活動への参加意欲の

全体のNPSは **-39.2**

年代別にみると30歳代、40歳代、60歳代のNPSが全体より高い結果となった。

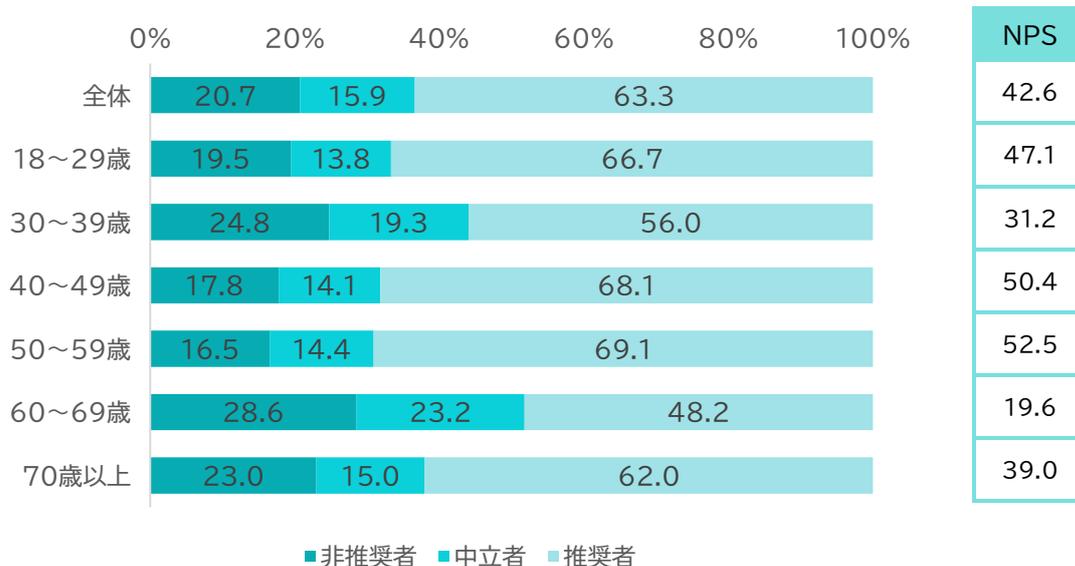


### 問10 市をよくする活動をしている人への感謝・応援の気持ち

市をよくする活動をしている人への感謝・応援の気持ちについて

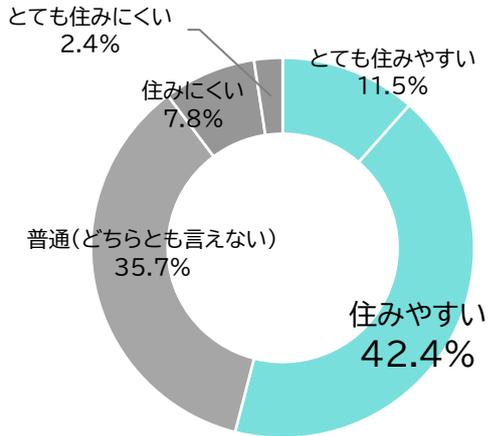
全体のNPSは **42.6**

年代別にみると、60歳代のNPSが他の年代より低く19.6となった。



### 3. 市の住みやすさについて

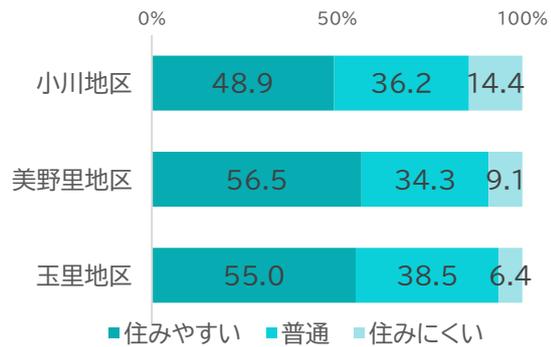
#### 問 11 住みやすさ



「とても住みやすい」「住みやすい」をあわせて

住みやすいと思っている人は **53.9%**

地区別にみると小川地区の「住みにくい」の割合が他地区と比較して多い。

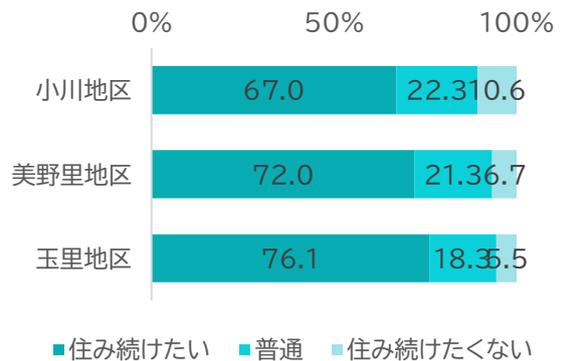
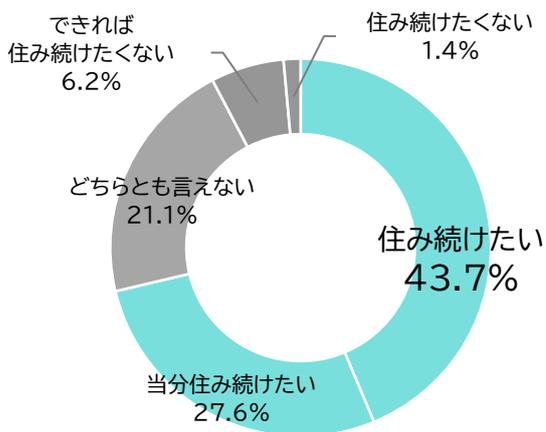


#### 問 12 住み続けたいか

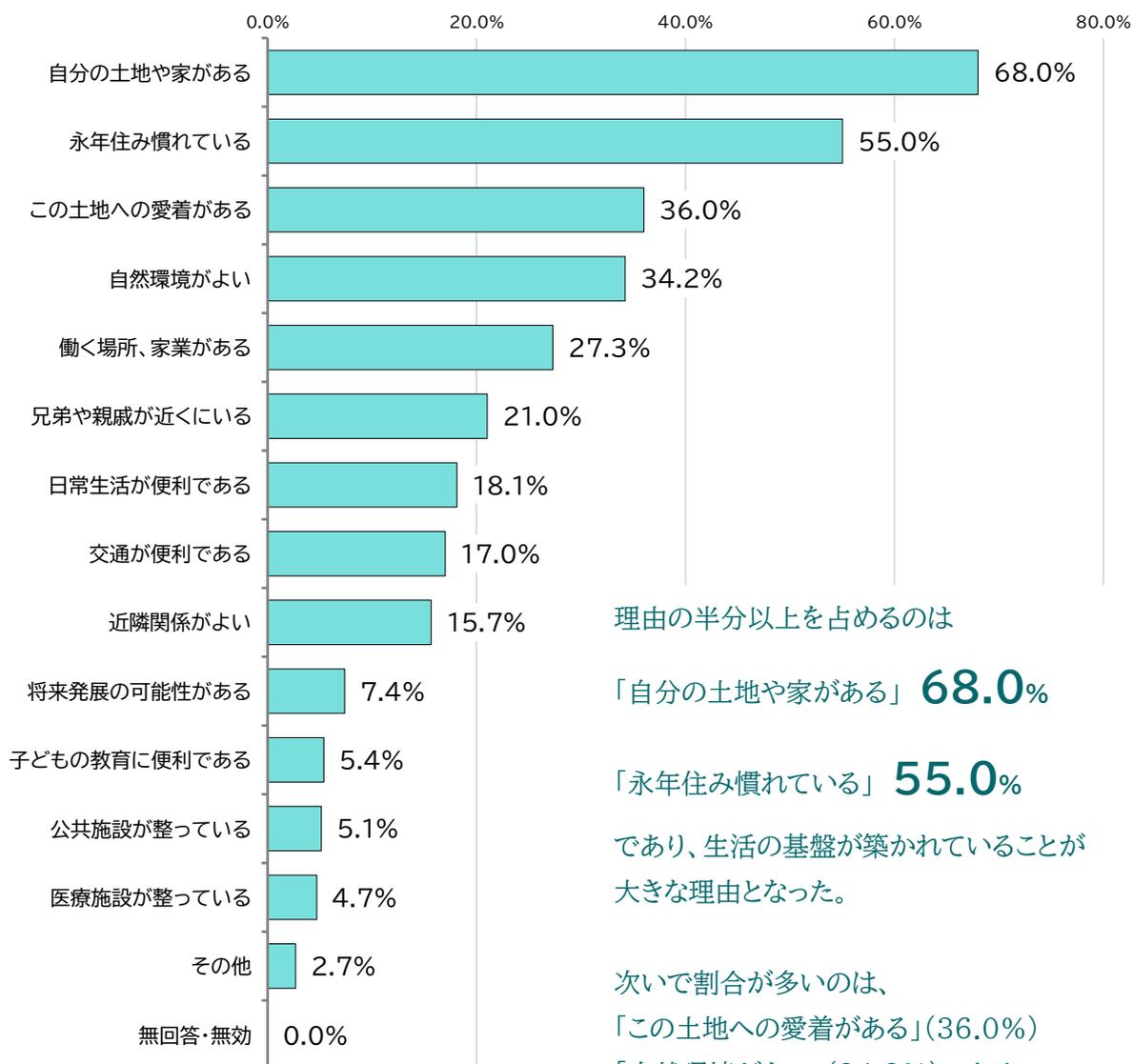
「住み続けたい」「当分住み続けたい」をあわせて、

住み続けたいと思っている人は **71.3%**

地区別にみると玉里、美野里、小川の順で住み続けたい割合が多い。



## 問 12① 住み続けたい理由



理由の半分以上を占めるのは

「自分の土地や家がある」 **68.0%**

「永年住み慣れている」 **55.0%**

であり、生活の基盤が築かれていることが大きな理由となった。

次いで割合が多いのは、

「この土地への愛着がある」(36.0%)

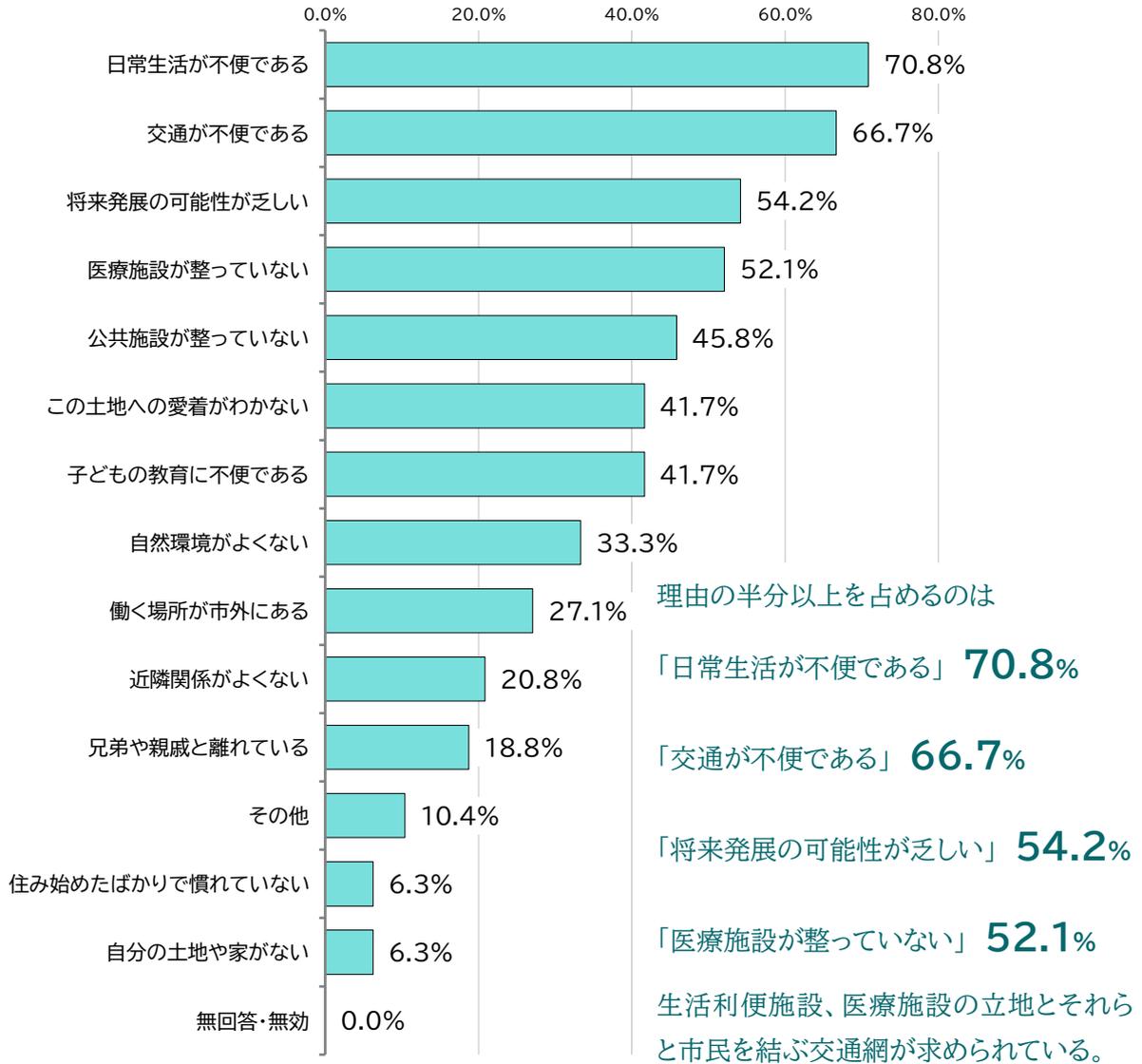
「自然環境がよい」(34.2%)であり、

市の自然環境の良さが評価されている。

### 年齢別の順位

	1位(%)	2位(%)	3位(%)
18～29歳	永年住み慣れている(35.6)	自然環境が良い(25.3)	この土地への愛着がある(24.1)
30～39歳	自分の土地や家がある(39.4)	永年住み慣れている(29.4)	この土地への愛着がある(23.9)
40～49歳	自分の土地や家がある(52.6)	永年住み慣れている(33.3)	自然環境がよい(26.7)
50～59歳	自分の土地や家がある(51.8)	永年住み慣れている(46.0)	働く場所、家業がある(25.2)
60～69歳	自分の土地や家がある(58.9)	永年住み慣れている(51.8)	自然環境がよい(23.2)
70歳以上	自分の土地や家がある(66.0)	永年住み慣れている(45.0)	この土地への愛着がある、自然環境がよい(34.0)

## 問 12② 住み続けたくない理由



### 年齢別の順位

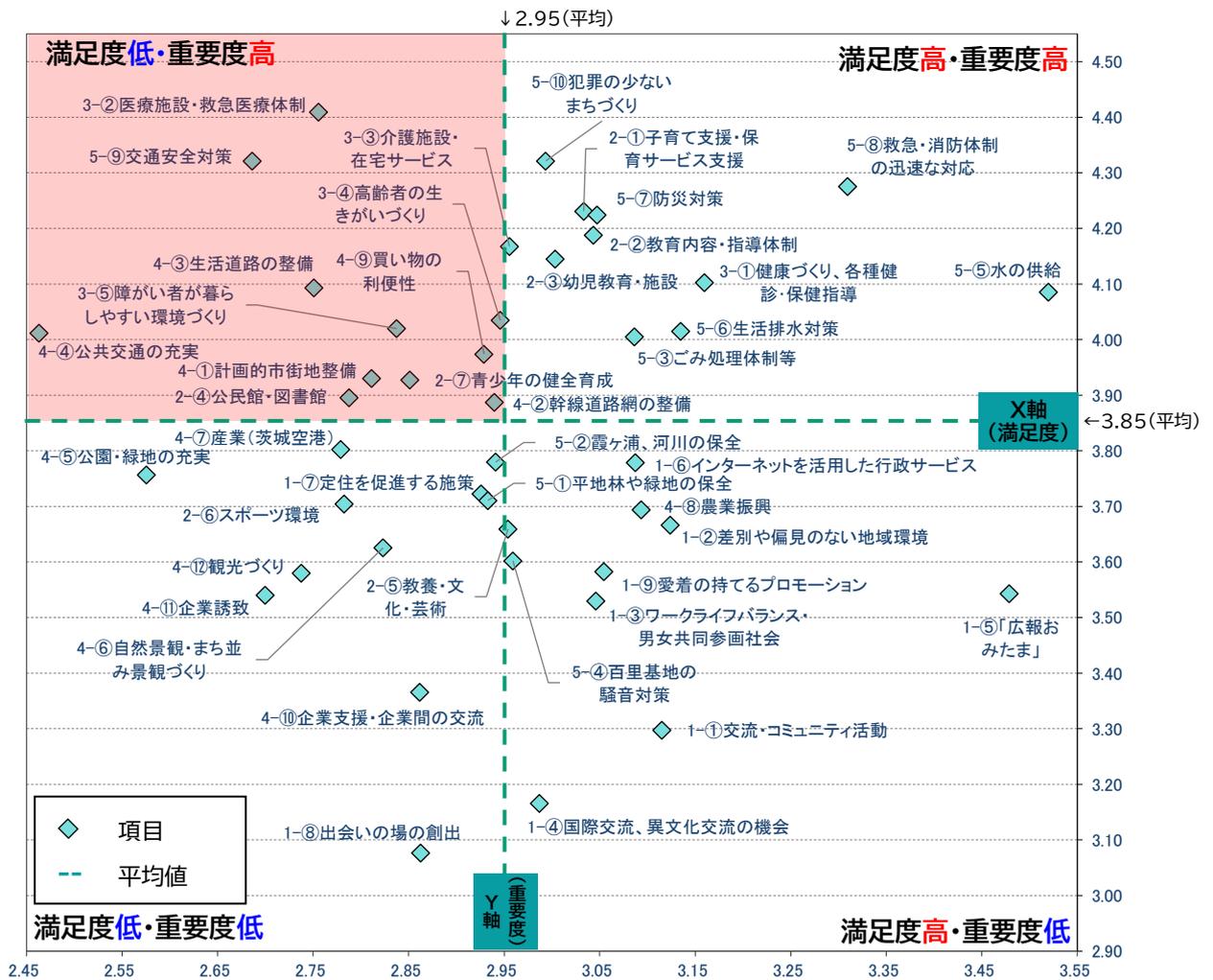
	1位(%)	2位(%)	3位(%)
18～29歳	将来発展の可能性が乏しい(6.9)	交通が不便である(5.7)	日常生活が不便である(5.7)
30～39歳	日常生活が不便である(8.3)	交通が不便である(6.4)	医療施設が整っていない(7.3)
40～49歳	交通が不便である(6.7)	日常生活が不便である(5.9)	子どもの教育に不便である(5.9)
50～59歳	日常生活が不便である(5.0)	交通が不便である(4.3)	将来発展の可能性が乏しい・医療施設が整っていない(同率3.6)
60～69歳	この土地への愛着がわからない・将来発展の可能性が乏しい・公共施設が整っていない・日常生活が不便である・子どもの教育に不便である・近隣関係がよくない(1.8) ※票数が少ないため同率		
70歳以上	交通が不便である(5.0)	将来発展の可能性が乏しい・日常生活が不便である・近隣関係がよくない(同率4.0) ※票数が少ないため同率	

# 4. 市の評価について

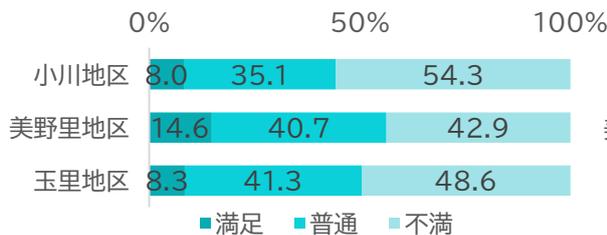
## 問 13 基本施策の現在の満足度、今後の重要度

満足度が低いのは  
 「公共交通の充実」、  
 「市民の憩いの場としての公園・緑地の充実」  
 であり、日常的な生活や憩いの場に対する不満が高い結果となった。

重要度が高いのは  
 「日常的な医療施設・救急医療体制」  
 「通学路・横断歩道などの交通安全対策」など  
 であり、安全・安心なまちづくりが重要視されている結果となった。



地区別「公共交通の充実」の満足度評価の割合



地区別「医療施設の充実」の重要度評価の割合

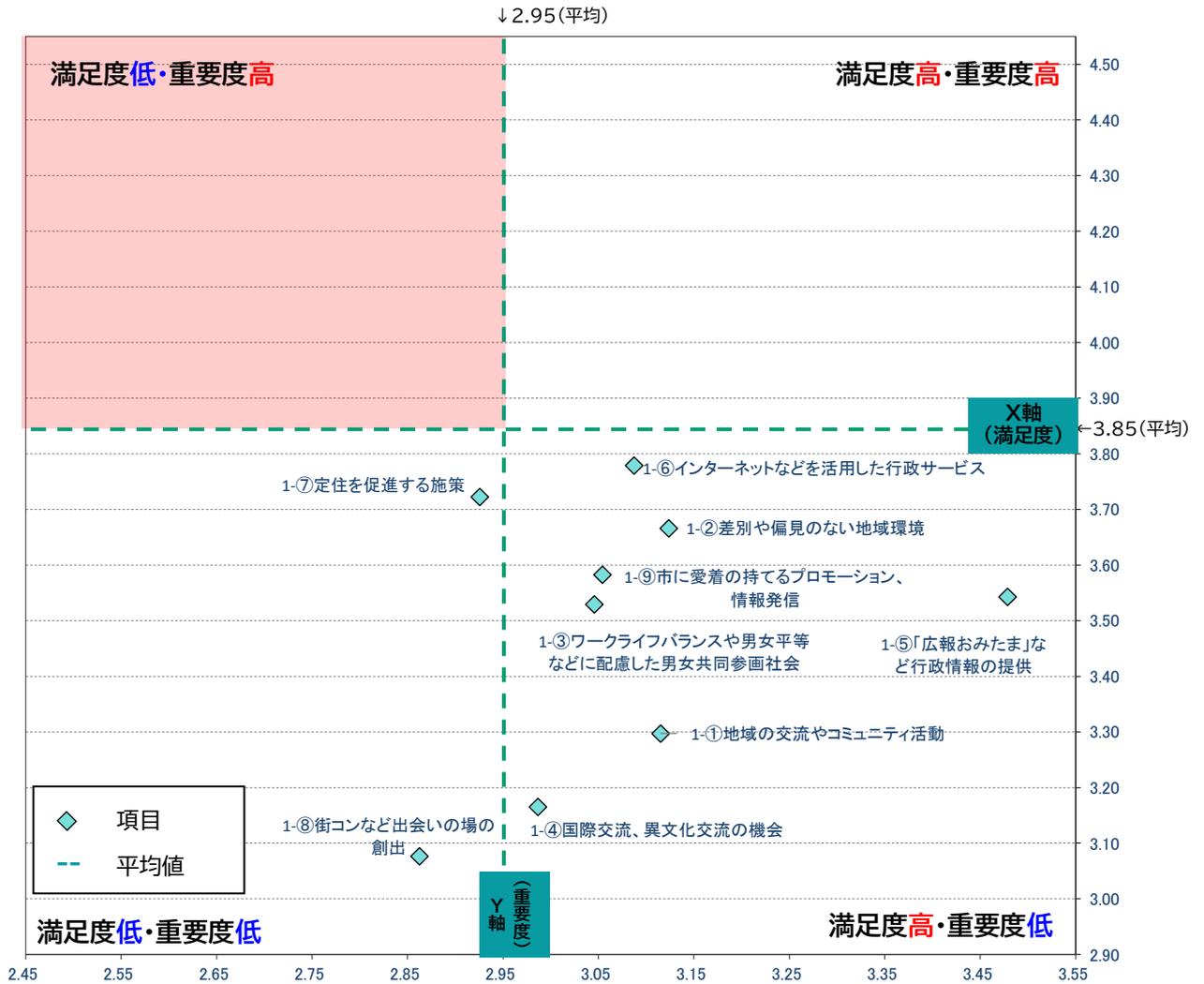


# 1. みんなの力で磨くまちづくり

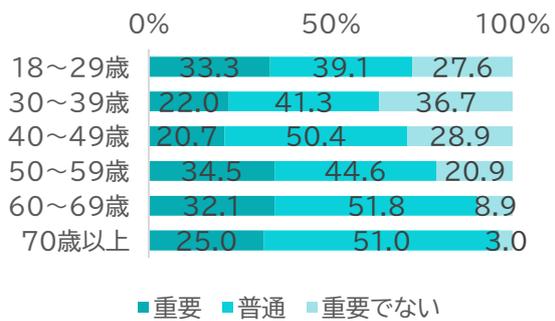
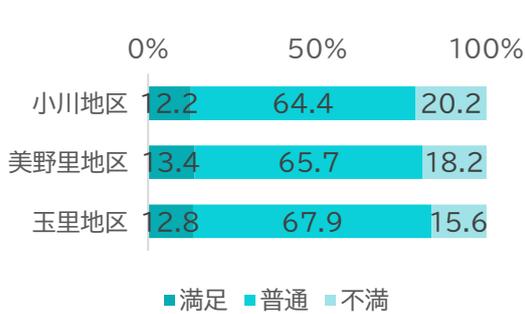
平均と比べて全体的に

**満足度が高く、  
重要度が低い項目が多い。**

その中でも「定住を促進する施策」、「街コンなど出会いの場の創出」は平均よりも満足度が低い。「街コンなど出会いの場の創出」については重要度について全項目の中で最も低い。



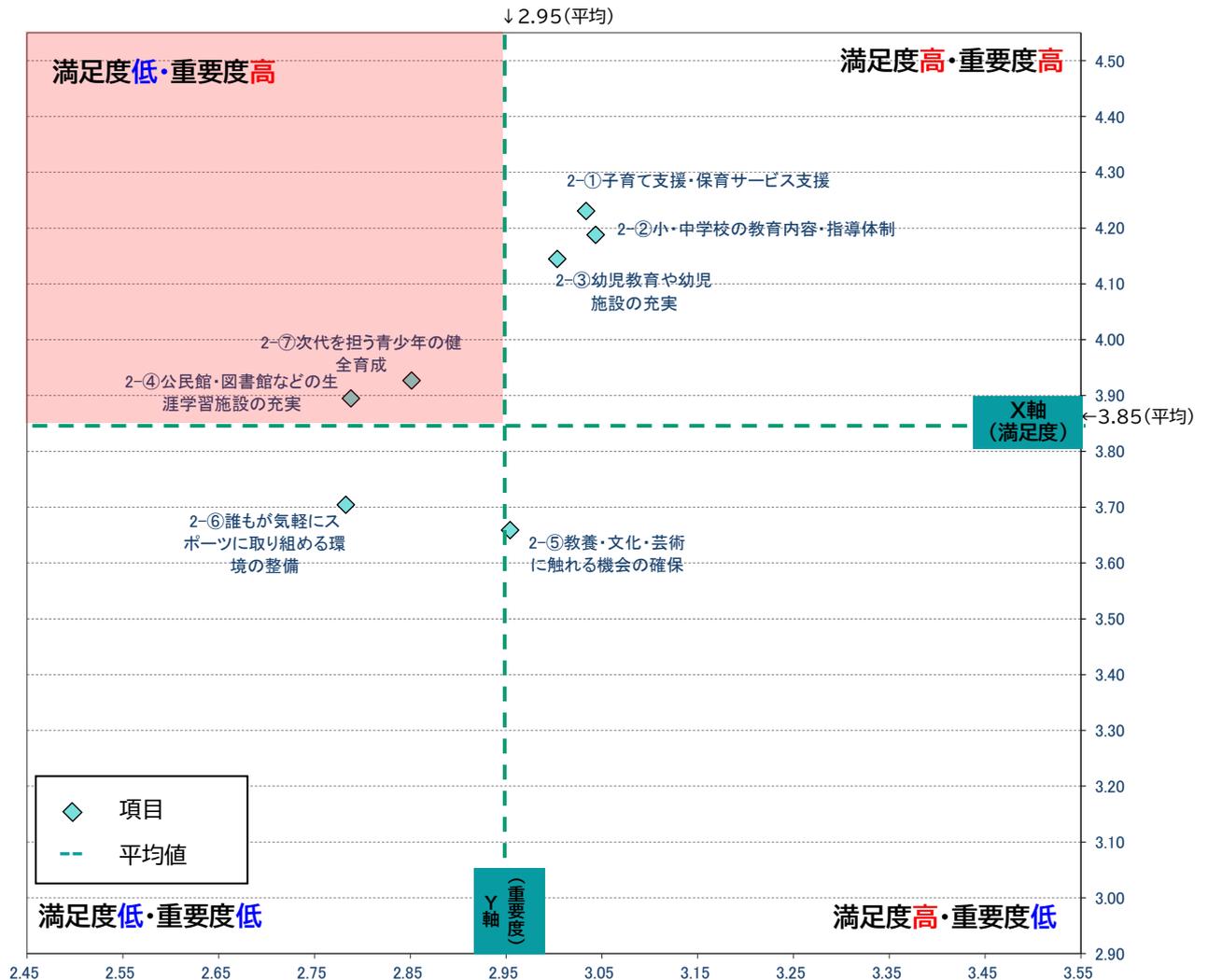
地区別「定住を促進する施策」の満足度評価の割合 年齢別「街コンなどの出会いの場の創出」の重要度



## 2. 人を育てる学びの場づくり

子育て関連について、満足度、重要度が平均よりも高い。

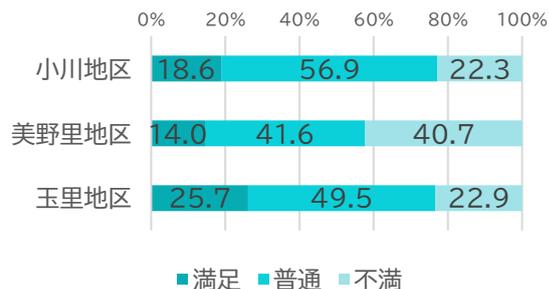
また、最優先改善項目に「公民館・図書館などの生涯学習施設の充実」と「次代を担う青少年の健全育成」が挙げられている。地区別に「公民館・図書館などの生涯学習施設の充実」の満足度をみると玉里地区は比較的満足度が高く、美野里地区は満足度が低い。



地区別「次代を担う青少年の健全育成」の満足度評価の割合



地区別「公民館・図書館などの生涯学習施設の充実」の満足度評価の割合

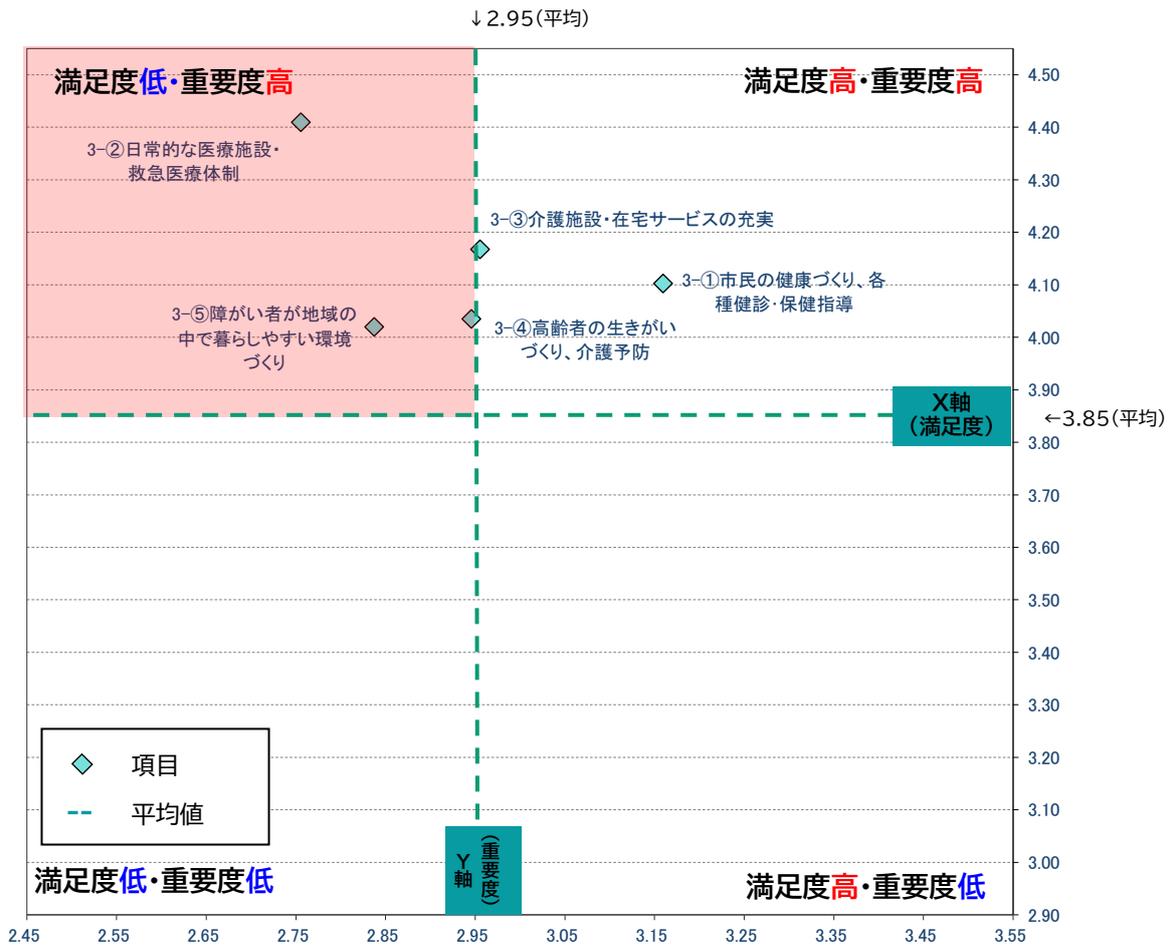


### 3. 誰もがいきいきと暮らせる社会づくり

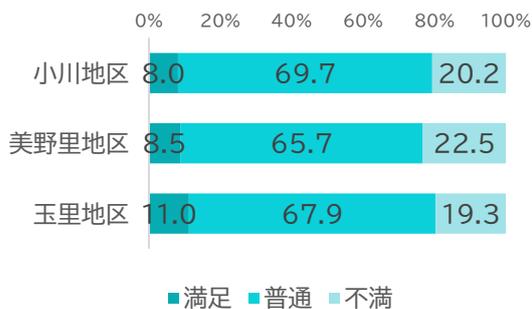
平均と比べて

**全体的に重要度が  
高い。**

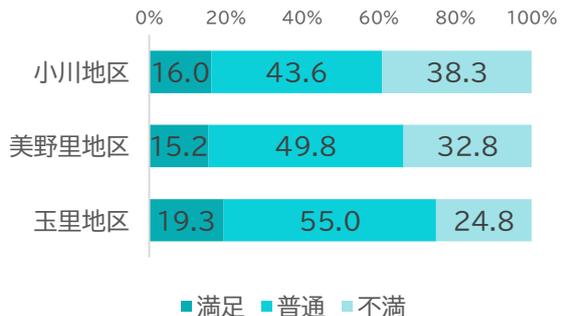
最優先改善項目となったのは「日常的な医療施設・救急医療体制」「障がい者が地域の中で暮らしやすい環境づくり」である。地区別にみると「日常的な医療施設・救急医療体制」の満足度が低いのは小川地区であった。



地区別「障がい者が地域の中で暮らしやすい環境づくり」の満足度評価の割合



地区別「日常的な医療施設・救急医療体制」の満足度評価の割合



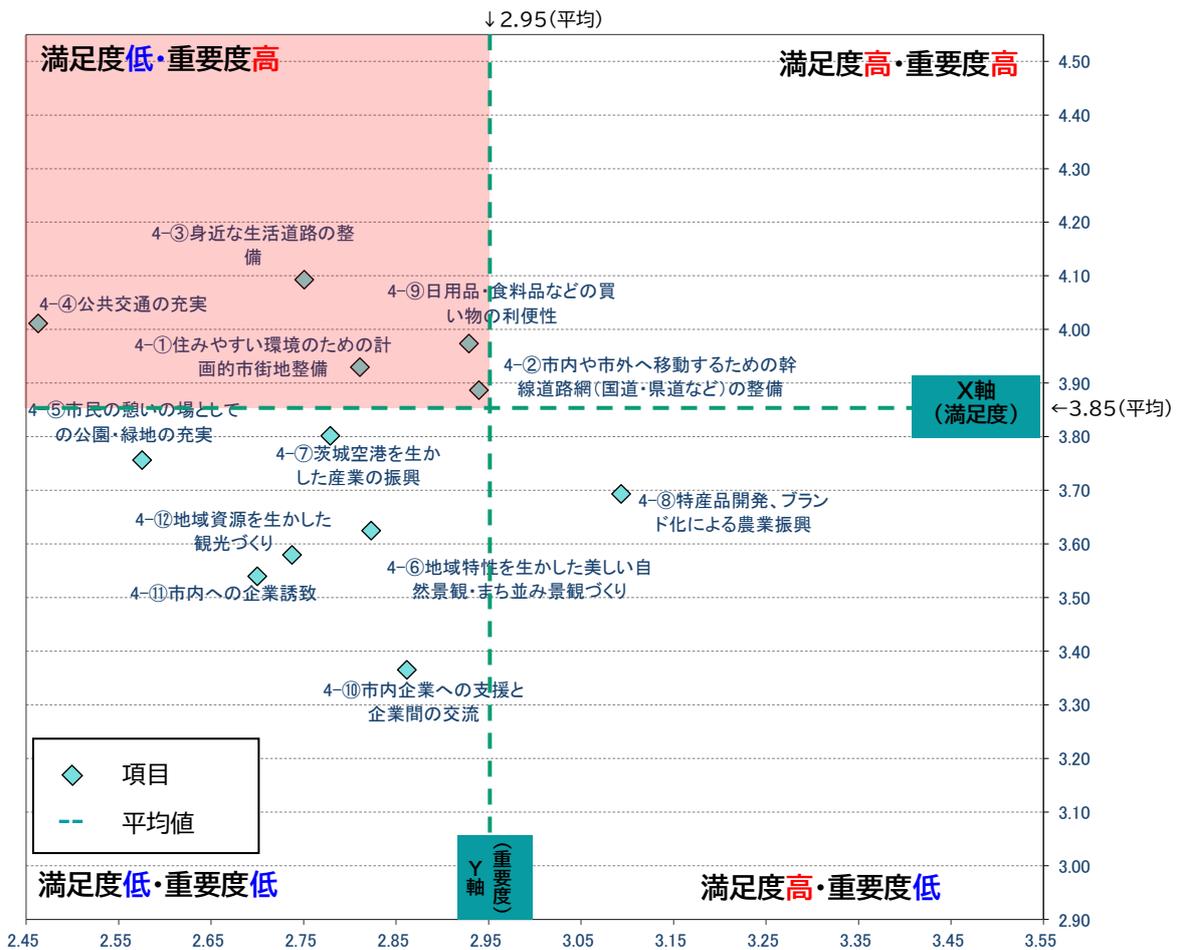
## 4. 仕事と暮らしを創造する環境づくり

平均と比べて

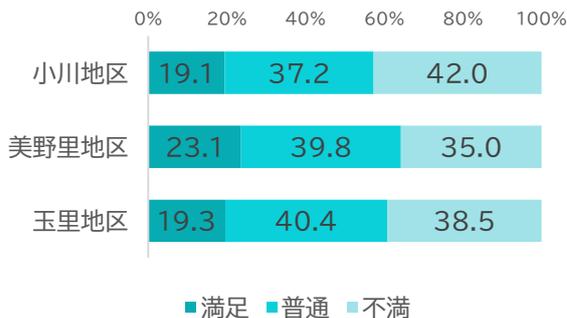
全体的に

満足度が低い。

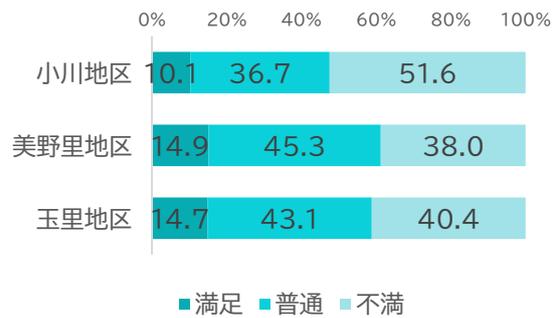
最優先改善項目となったのは「公共交通の充実」「身近な生活道路の整備」「住みやすい環境のための計画的市街地整備」「日用品・食料品などの買い物の利便性」などであり、住居、商業といった日常的な生活や公共交通や道路整備といった交通に関する不満が挙げられている。また、「公園緑地の充実」の満足度が全体で2番目に低い。地区別に見ると小川地区の不満の割合が最も多く51.6%となっている。



地区別「身近な生活道路の整備」の満足度評価の割合



地区別「公園緑地の充実」の満足度評価の割合



## 5. 安全・安心な生活を支える体制づくり

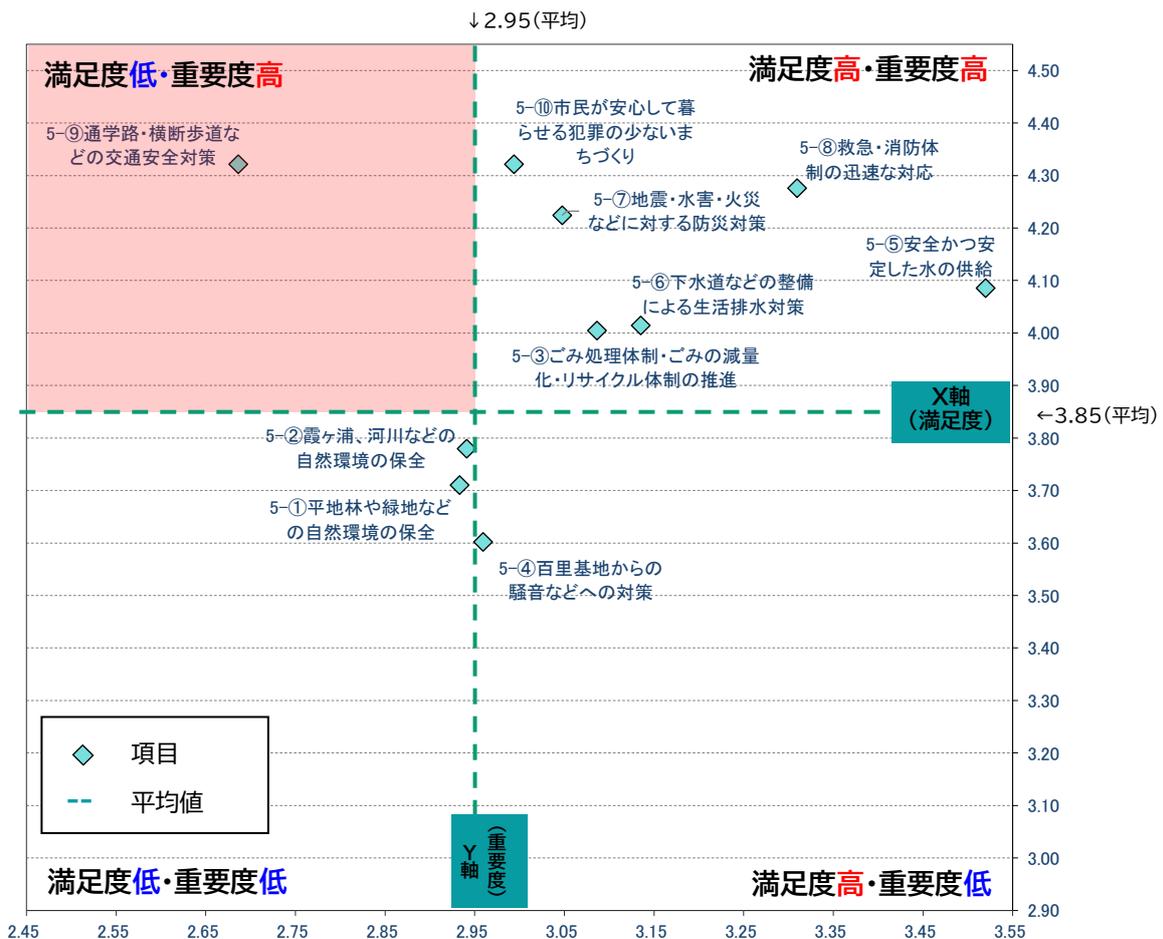
自然環境に関する

**満足度は概ね平均であり  
重要度は低い。**

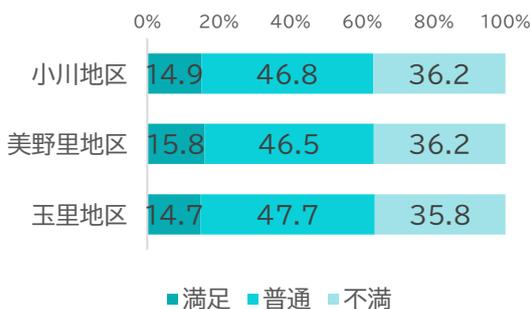
一方、安全・安心に関する

**重要度は高い。**

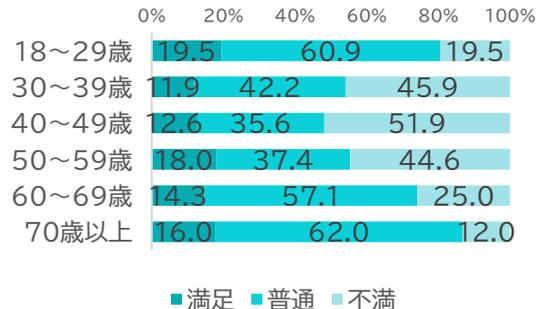
最優先改善項目となったのは「通学路・横断歩道などの交通安全対策」であった。地区別にみると大きな差は無いが、年齢別にみると30歳代、40歳代、50歳代の不満の割合が多い。



地区別「通学路・横断歩道などの交通安全対策」の満足度評価の割合



年齢別「通学路・横断歩道などの交通安全対策」の満足度評価の割合



## 5. 生活環境について

### 問 14 利用しやすい公共交通

利用しやすい公共交通に大切なものは

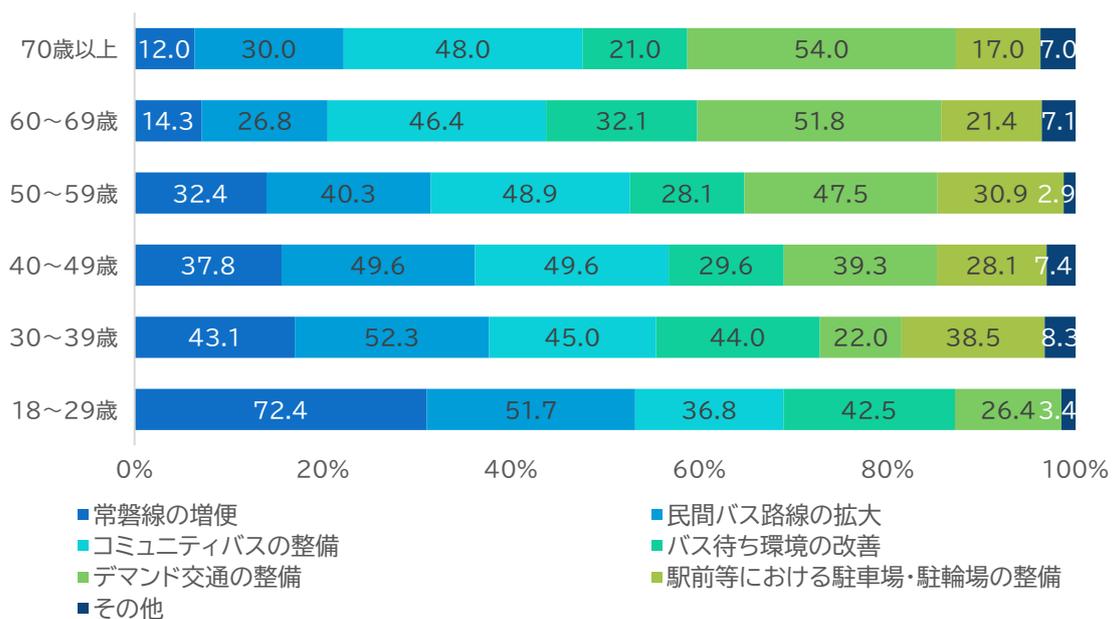
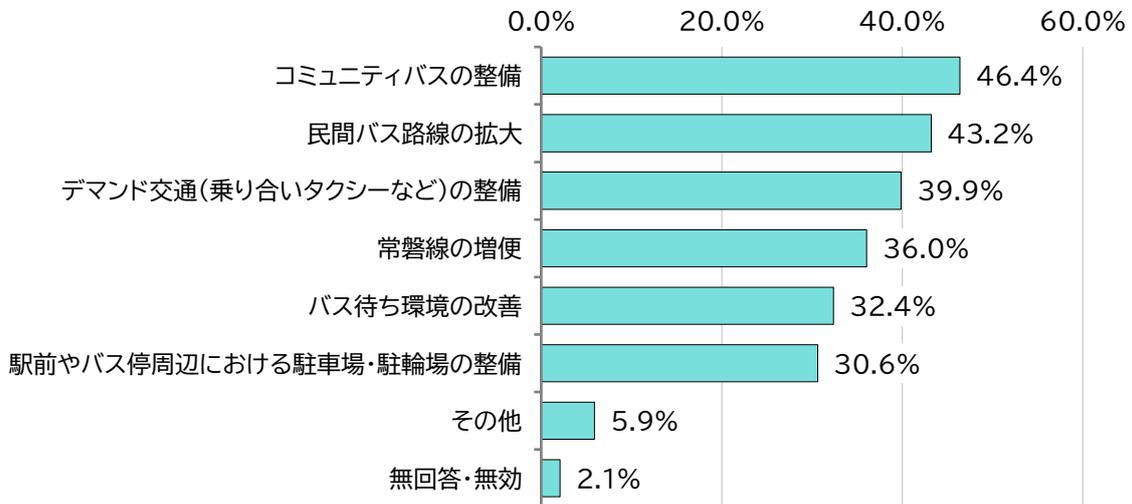
「コミュニティバスの整備」 **46.4%**

「民間バス路線の拡大」 **43.2%**

といったバス路線整備に関する項目が多かった。

年代別にみると

若い人ほどバス、電車に対する回答が多く、  
高齢になるほどデマンド交通に対する回答が多い傾向がみられた。



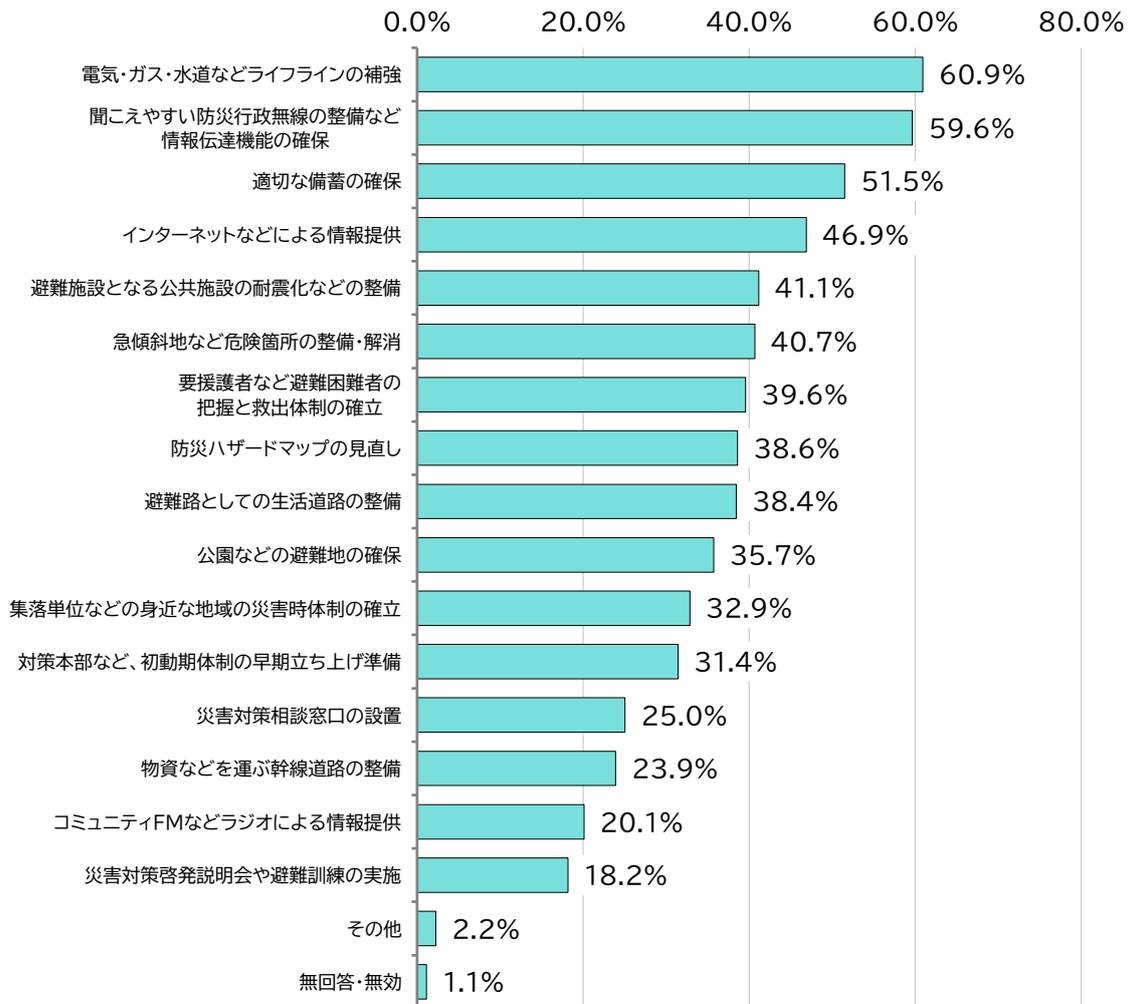
## 問 15 自然災害に備える ために見直しが必要なもの

自然災害に備えるために見直しが必要なものは

「ライフラインの補強」 **60.9%**

「情報伝達機能の確保」 **59.6%**

が多く回答された。



### 年齢別の順位

	1位(%)	2位(%)	3位(%)
18～29歳	電気・ガス・水道などライフラインの補強(64.4)	防災無線整備など情報伝達機能の確保(57.5)	インターネットなどによる情報提供(57.5)
30～39歳	インターネットなどによる情報提供(64.2)	電気・ガス・水道などライフラインの補強(62.4)	防災無線整備など情報伝達機能の確保(55.0)
40～49歳	電気・ガス・水道などライフラインの補強(65.9)	防災無線整備など情報伝達機能の確保(63.7)	適切な備蓄の確保(57.8)
50～59歳	電気・ガス・水道などライフラインの補強(64.0)	インターネットなどによる情報提供(53.2)	防災無線整備など情報伝達機能の確保(51.1)
60～69歳	防災無線整備など情報伝達機能の確保(66.1)	電気・ガス・水道などライフラインの補強(62.5)	集落単位などの身近な地域の災害時体制の確立(57.0)
70歳以上	防災無線整備など情報伝達機能の確保(69.0)	集落単位などの身近な地域の災害時体制の確立(57.0)	適切な備蓄の確保(49.0)

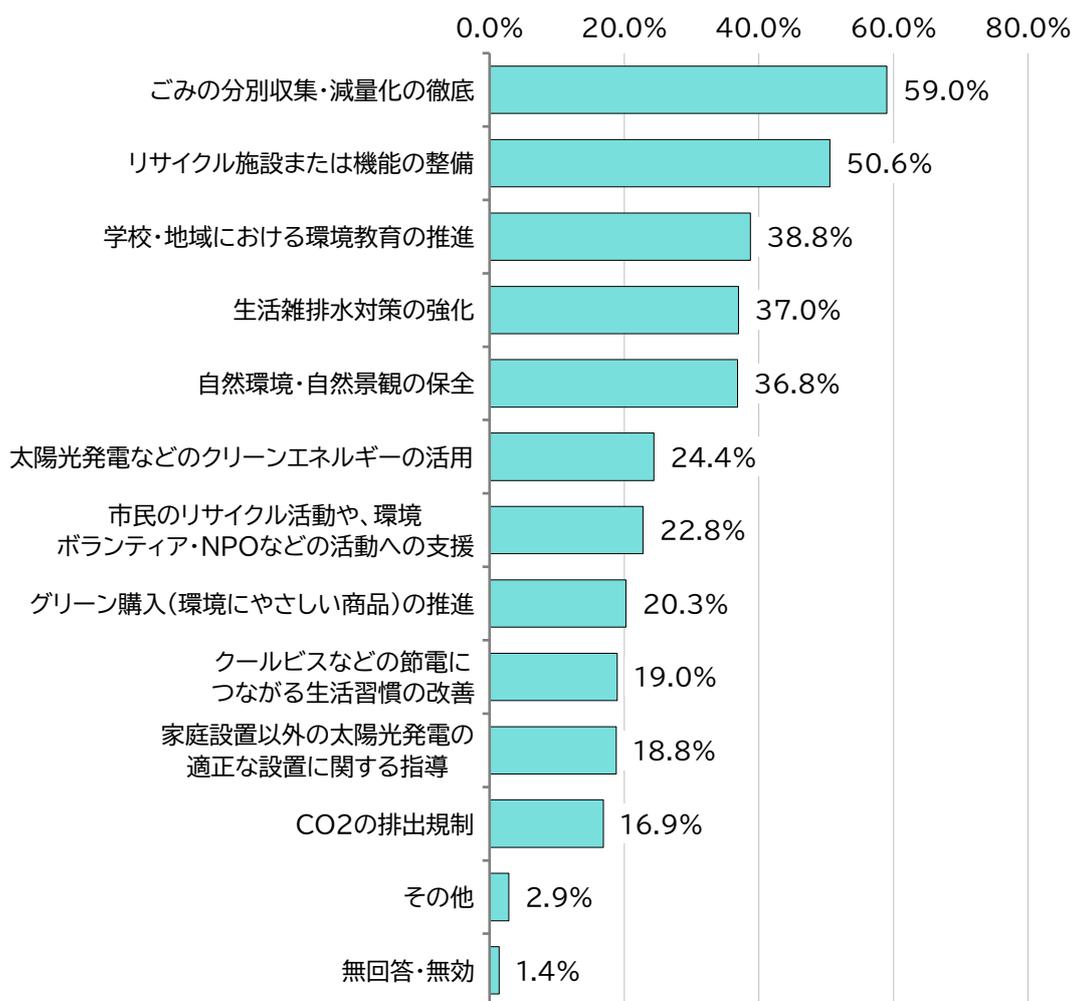
## 問 16 自然環境を守るために大切なこと

自然環境を守るために大切なことは

「ごみの分別収集・減量化の徹底」 **59.0%**

「リサイクル施設または機能の整備」 **50.6%**

が多く回答された。



### 年齢別の順位

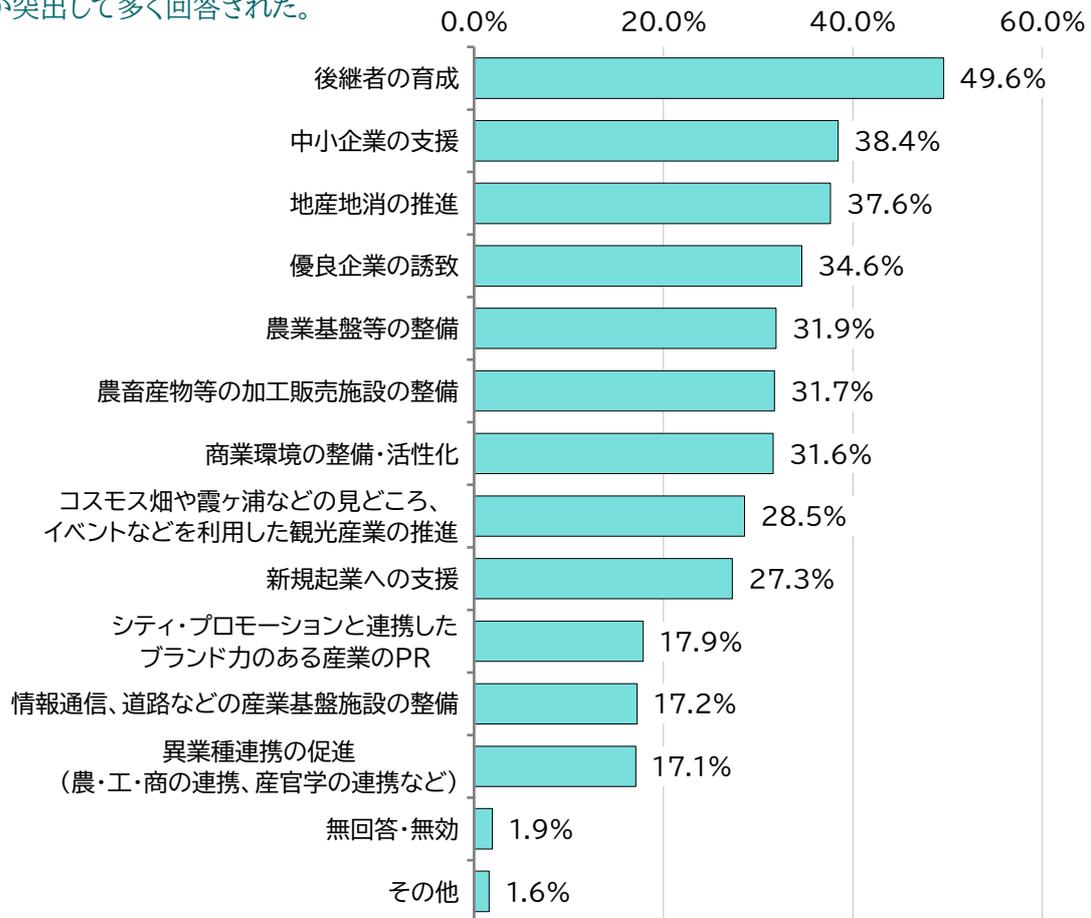
	1位(%)	2位(%)	3位(%)
18～29歳	ごみの分別収集・減量化の徹底 (63.2)	リサイクル施設または機能の整備 (51.7)	学校・地域における環境教育の推進 (50.6)
30～39歳	ごみの分別収集・減量化の徹底 (56.0)	リサイクル施設または機能の整備 (49.5)	学校・地域における環境教育の推進 (45.0)
40～49歳	ごみの分別収集・減量化の徹底 (57.8)	リサイクル施設または機能の整備 (48.9)	学校・地域における環境教育の推進 (38.5)
50～59歳	ごみの分別収集・減量化の徹底 (61.2)	リサイクル施設または機能の整備 (51.1)	学校・地域における環境教育の推進 生活雑排水対策の強化(同率 40.3)
60～69歳	ごみの分別収集・減量化の徹底 (55.4)	リサイクル施設または機能の整備 (55.4)	自然環境・自然景観の保全(39.3)
70歳以上	ごみの分別収集・減量化の徹底 (59.0)	リサイクル施設または機能の整備 (50.0)	自然環境・自然景観の保全(40.0)

## 6. 産業について

### 問 17 今後の産業振興や新たな産業づくり

今後の産業振興等について大切なことは、それに次いで「中小企業の支援」(38.4%)、「地産地消の推進」(37.6%)が続く。「後継者の育成」**49.6%**

が突出して多く回答された。



#### 年齢別の順位

	1位(%)	2位(%)	3位(%)
18～29歳	後継者の育成(49.4)	コスモス畑や霞ヶ浦などの見どころ、イベントなどを利用した観光産業の推進(同率46.0)	地産地消の推進(44.8)
30～39歳	後継者の育成(51.4)	中小企業の支援(44.0)	農畜産物等の加工販売施設の整備 商業環境の整備・活性化 新規起業への支援(同率35.8)
40～49歳	後継者の育成(48.9)	中小企業の支援(42.2)	地産地消の推進(37.8)
50～59歳	後継者の育成(46.0)	中小企業の支援(40.3)	商業環境の整備・活性化、地産地消の推進(同率38.1)
60～69歳	後継者の育成(44.6)	地産地消の推進、優良企業の誘致(同率37.5)	農畜産物等の加工販売施設の整備、 中小企業の支援(同率32.1)
70歳以上	後継者の育成(57.0)	地産地消の推進(38.0)	優良企業の誘致(35.0)

## 問 18 観光・交流振興に大切なこと

観光・交流振興に大切なことについては

「観光拠点施設の整備」 **60.3%**

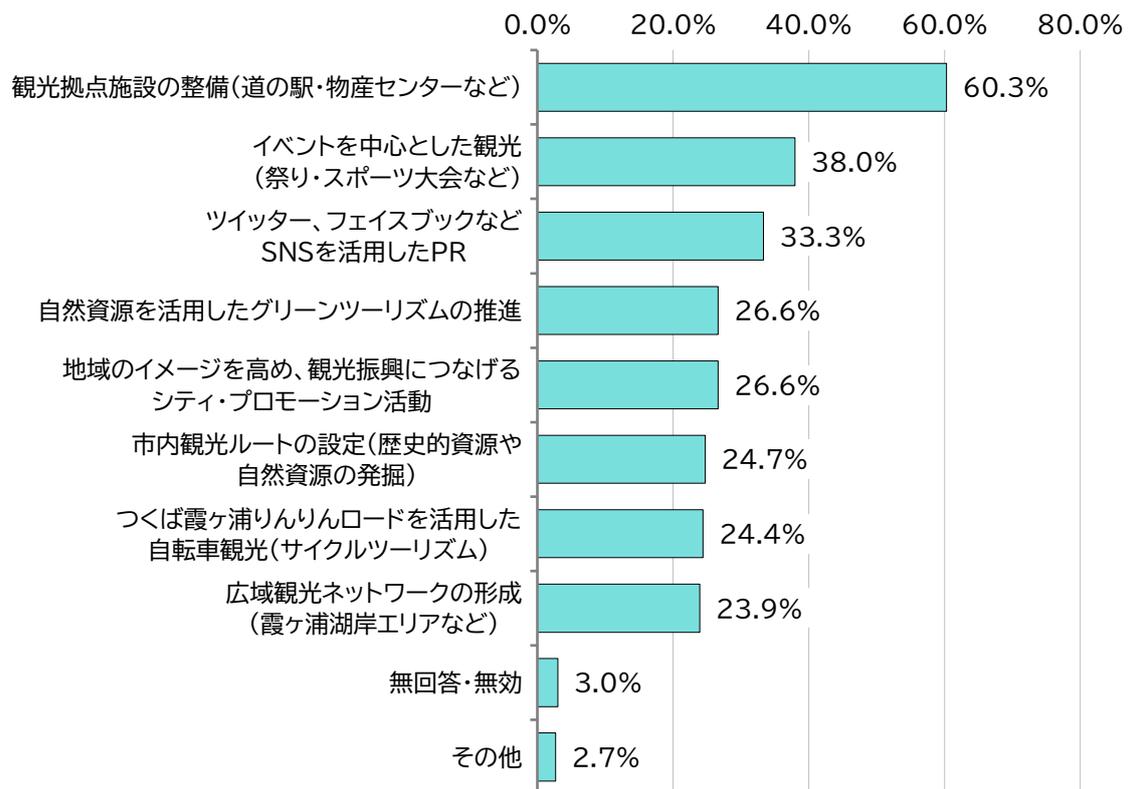
が他の項目より突出して多く回答された。

年齢別にみると 18～49 歳代は

「イベントを中心とした観光」

50 歳代以降は

「市内観光ルートの設定」と回答している割合が多い。



### 年齢別の順位

	1位(%)	2位(%)	3位(%)
18～29 歳	観光拠点施設の整備(52.9)	イベントを中心とした観光(52.9) 同率1位	SNSを活用したPR(50.6)
30～39 歳	観光拠点施設の整備(67.9)	イベントを中心とした観光(56.9)	SNSを活用したPR(40.4)
40～49 歳	観光拠点施設の整備(65.2)	イベントを中心とした観光(40.0)	SNSを活用したPR(37.0)
50～59 歳	観光拠点施設の整備(60.4)	SNSを活用したPR(30.2)	市内観光ルートの設定、イベントを中心とした観光、グリーンツーリズムの推進、シティ・プロモーション活動(同率 28.8)
60～69 歳	観光拠点施設の整備(53.6)	市内観光ルートの設定、シティ・プロモーション活動(同率 32.1)	広域観光ネットワークの形成(25.0)
70 歳以上	観光拠点施設の整備(55.0)	市内観光ルートの設定(31.0)	グリーンツーリズムの推進(30.0)

## 7. 保健・医療・福祉について

### 問 19 子育てしやすい環境

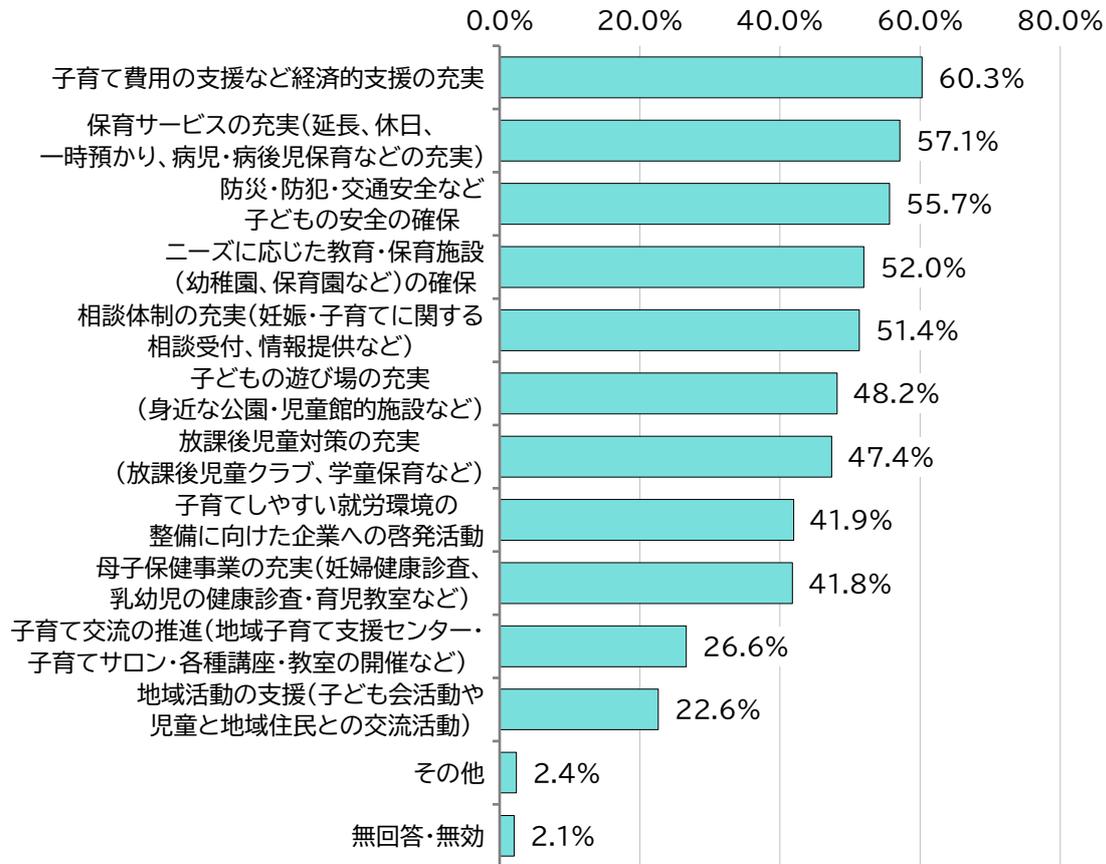
子育てしやすい環境について大切なことは

「子育て費用の支援など経済的支援の充実」**60.3%**

次いで「保育サービスの充実」(57.1%)

と続き、ほとんどの項目に対して 40%以上回答された。

年齢別では回答の割合にバラつきがみられ、60 歳未満は「保育サービスの充実」が上位に 60 歳以上は「防災・防犯・交通安全など子どもの安全の確保」が上位に挙げられた。



### 年齢別の順位

	1位(%)	2位(%)	3位(%)
18~29 歳	保育サービスの充実(69.0)	ニーズに応じた教育・保育施設の確保(67.8)	相談体制の充実、子育て費用の支援など経済的支援の充実(同率 66.7)
30~39 歳	子育て費用の支援など経済的支援の充実(75.2)	保育サービスの充実(68.8)	ニーズに応じた教育・保育施設の確保(68.8)
40~49 歳	子育て費用の支援など経済的支援の充実(68.1)	保育サービスの充実(59.3)	子どもの遊び場の充実、防災・防犯・交通安全など子どもの安全の確保(同率 54.8)
50~59 歳	保育サービスの充実(58.3)	ニーズに応じた教育・保育施設の確保(56.8) 同率1位	防災・防犯・交通安全など子どもの安全の確保(56.1)
60~69 歳	防災・防犯・交通安全など子どもの安全の確保(55.4)	子育て費用の支援など経済的支援の充実(48.2)	保育サービスの充実(44.6)
70 歳以上	防災・防犯・交通安全など子どもの安全の確保(57.0)	子育て費用の支援など経済的支援の充実(46.0)	相談体制の充実(41.0)

## 問 20 医療、地域福祉、障がい者福祉、高齢者福祉に何が大切か

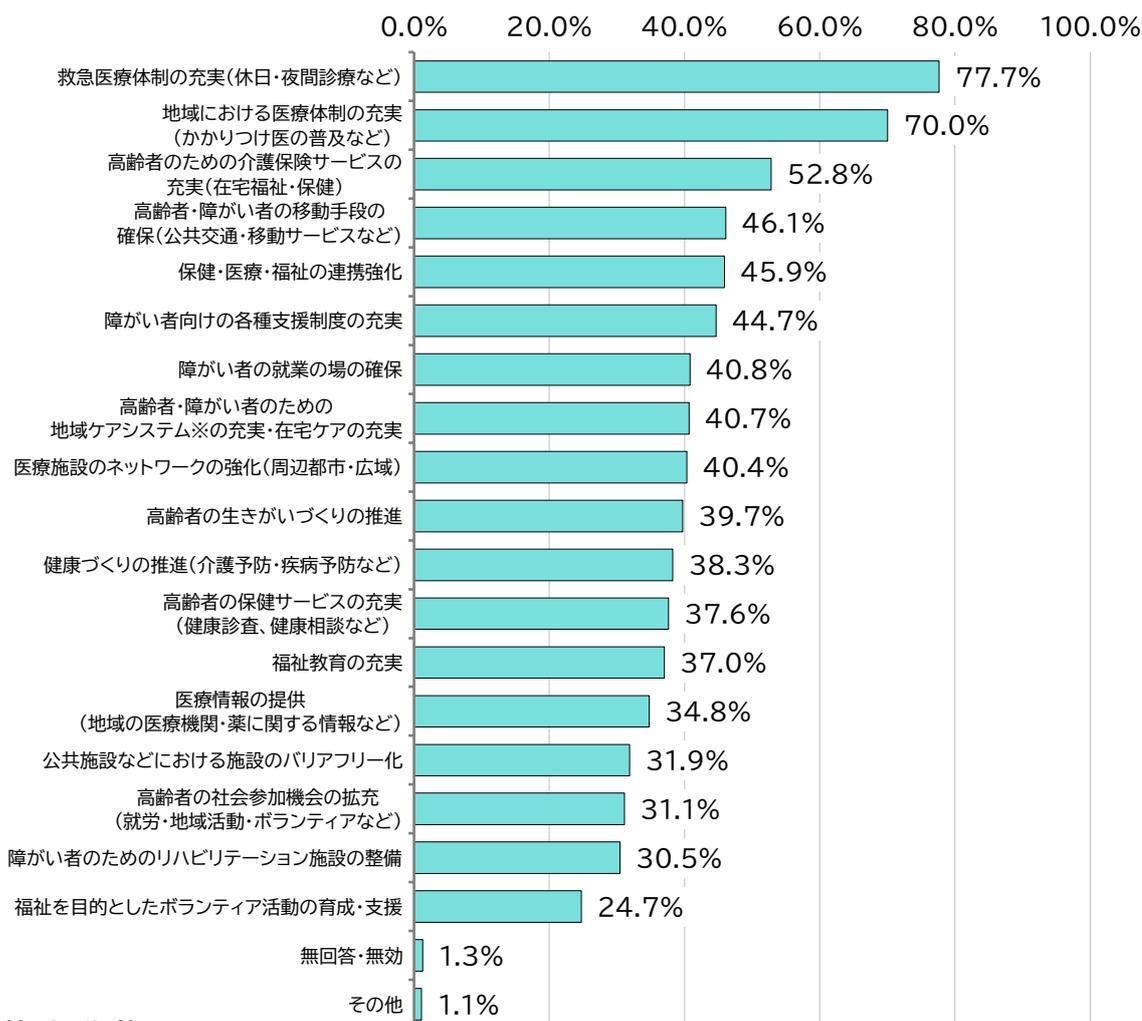
医療、地域福祉等に大切なことは

「救急医療体制の充実」 **77.7%**

「地域における医療体制の充実」 **70.0%**

が突出して多く回答された。

年齢別にみると3位はバラつきがみられ、18～20 歳代では「公共施設のバリアフリー化」等、30～50 歳代では「介護保険サービスの充実」、60 歳代では「移動手段の確保」、70 歳代では「生きがいづくりの推進」とそれぞれの視点により大切なものが異なっている。



### 年齢別の順位

	1位(%)	2位(%)	3位(%)
18～29 歳	救急医療体制の充実(71.3)	地域における医療体制の充実(71.3) ※同率1位	公共施設などにおける施設のバリアフリー化、保健・医療・福祉の連携強化(同率47.1)
30～39 歳	救急医療体制の充実(83.5)	地域における医療体制の充実(69.7)	介護保険サービスの充実(46.8)
40～49 歳	救急医療体制の充実(81.5)	地域における医療体制の充実(71.9)	介護保険サービスの充実(50.4)
50～59 歳	救急医療体制の充実(79.1)	地域における医療体制の充実(71.9)	介護保険サービスの充実(64.0)
60～69 歳	救急医療体制の充実(73.2)	地域における医療体制の充実、介護保険サービスの充実(同率60.7)	移動手段の確保(51.8)
70 歳以上	救急医療体制の充実(72.0)	地域における医療体制の充実(69.0)	高齢者の生きがいづくりの推進(58.0)

## 8. 教育・文化・スポーツについて

### 問 21 子ども達の学校教育の充実、市民の生涯学習活動の活性化

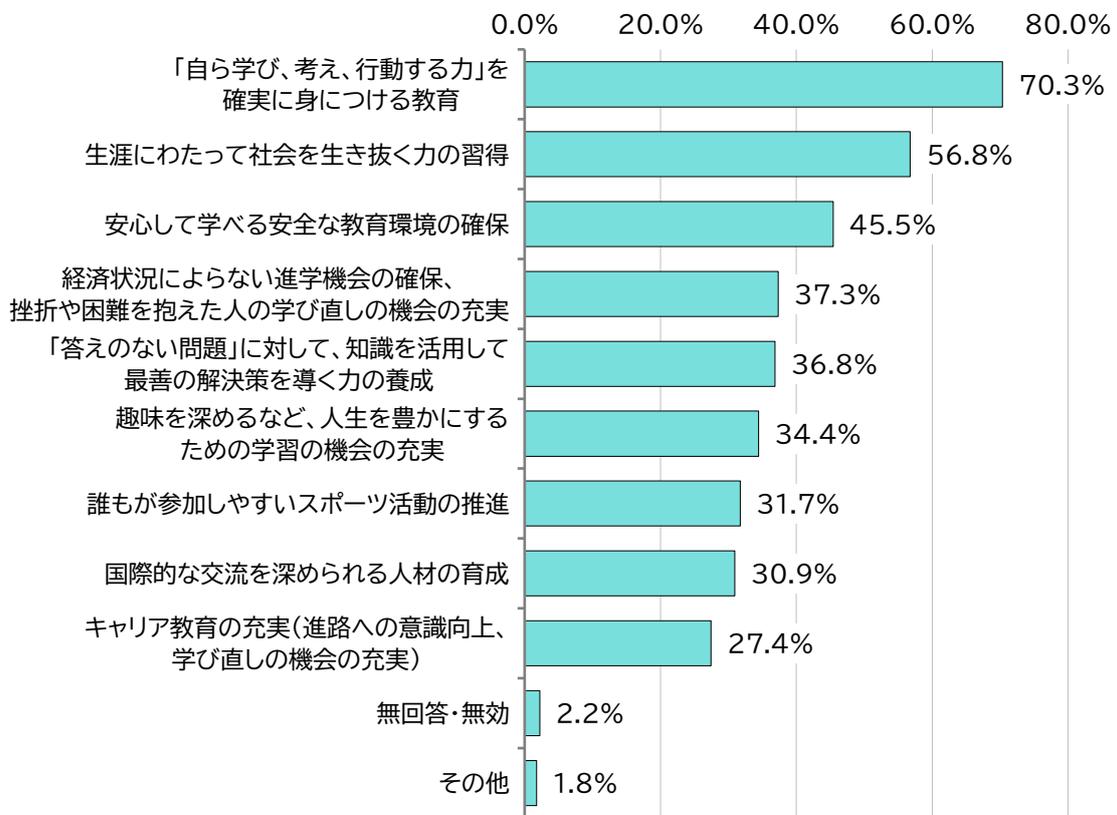
子ども達の学校教育の充実等に大切なことは「自ら学び、考え、行動する力」を

「確実に身につける教育」 **70.3%**

が突出して多く回答された。

次いで「生涯にわたって社会を生き抜く力の習得」(56.8%)、「安心して学べる安全な教育環境の確保」(45.5%)と続いている。

年齢別にみても概ね全体と同様の順位となった。



#### 年齢別の順位

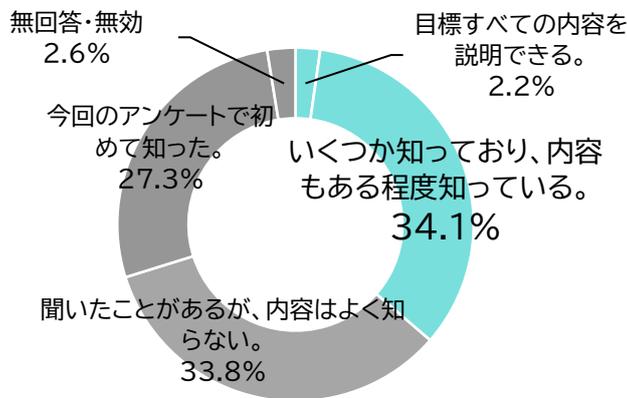
	1位(%)	2位(%)	3位(%)
18～29歳	「自ら学び、考え、行動する力」を確実に身につける教育(75.9)	生涯にわたって社会を生き抜く力の習得(57.5)	安心して学べる安全な教育環境の確保(46.0)
30～39歳	「自ら学び、考え、行動する力」を確実に身につける教育(70.6)	生涯にわたって社会を生き抜く力の習得(60.6)	安心して学べる安全な教育環境の確保(56.0)
40～49歳	「自ら学び、考え、行動する力」を確実に身につける教育(77.8)	生涯にわたって社会を生き抜く力の習得(48.9)	「答えのない問題」に対して、知識を活用して最善の解決策を導く力の養成(45.2)
50～59歳	「自ら学び、考え、行動する力」を確実に身につける教育(68.3)	生涯にわたって社会を生き抜く力の習得(57.6)	安心して学べる安全な教育環境の確保(45.3)
60～69歳	「自ら学び、考え、行動する力」を確実に身につける教育(57.1)	生涯にわたって社会を生き抜く力の習得(55.4)	安心して学べる安全な教育環境の確保(42.9)
70歳以上	「自ら学び、考え、行動する力」を確実に身につける教育(65.0)	生涯にわたって社会を生き抜く力の習得(62.0)	安心して学べる安全な教育環境の確保(40.0)

## 9. 市における SDGsについて

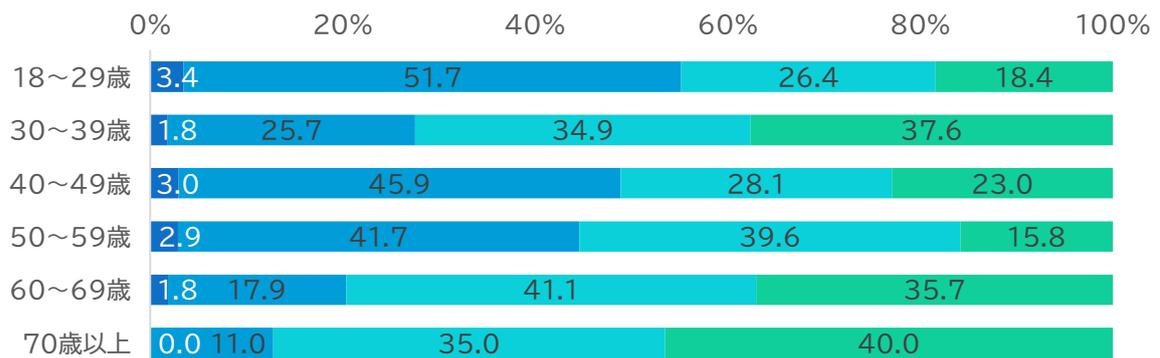
### 問 22 SDGsの認知具合

SDGsは「目標すべての内容を説明できる」(2.2%)と「いくつか知っており、内容もある程度知っている」を足した概ねの内容を知っている人は**36.3%**

年齢別にみると高齢になるほど、認知具合は落ちる傾向がみられる。



#### 年齢別「SDGsの認知具合」の割合



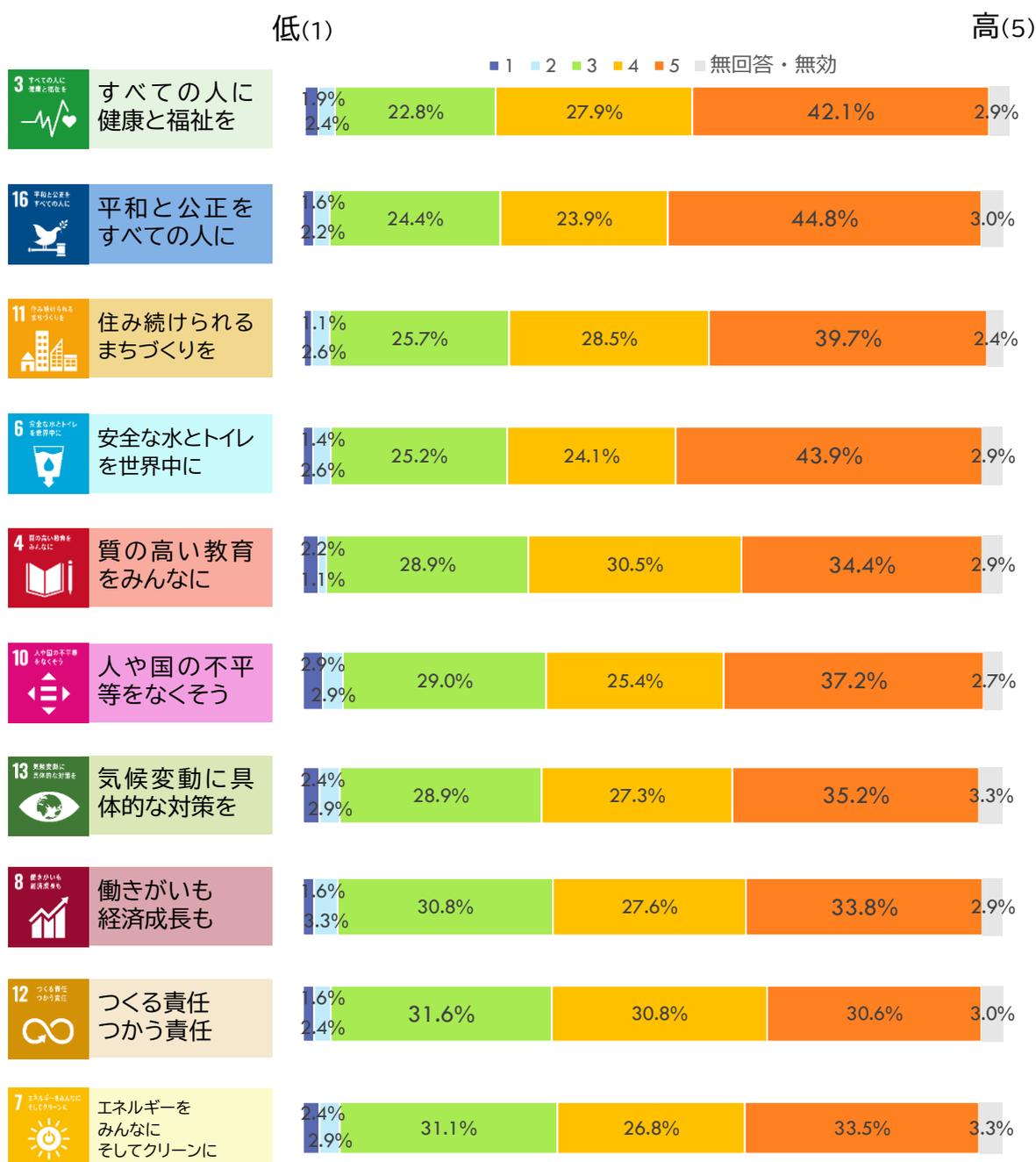
- 17の目標すべてを知っており、内容を説明できる。
- いくつかの目標を知っており、内容もある程度知っている。
- SDGsという言葉は聞いたことがあるが、内容はよく知らない。
- SDGsという言葉を決して聞いたことがない。

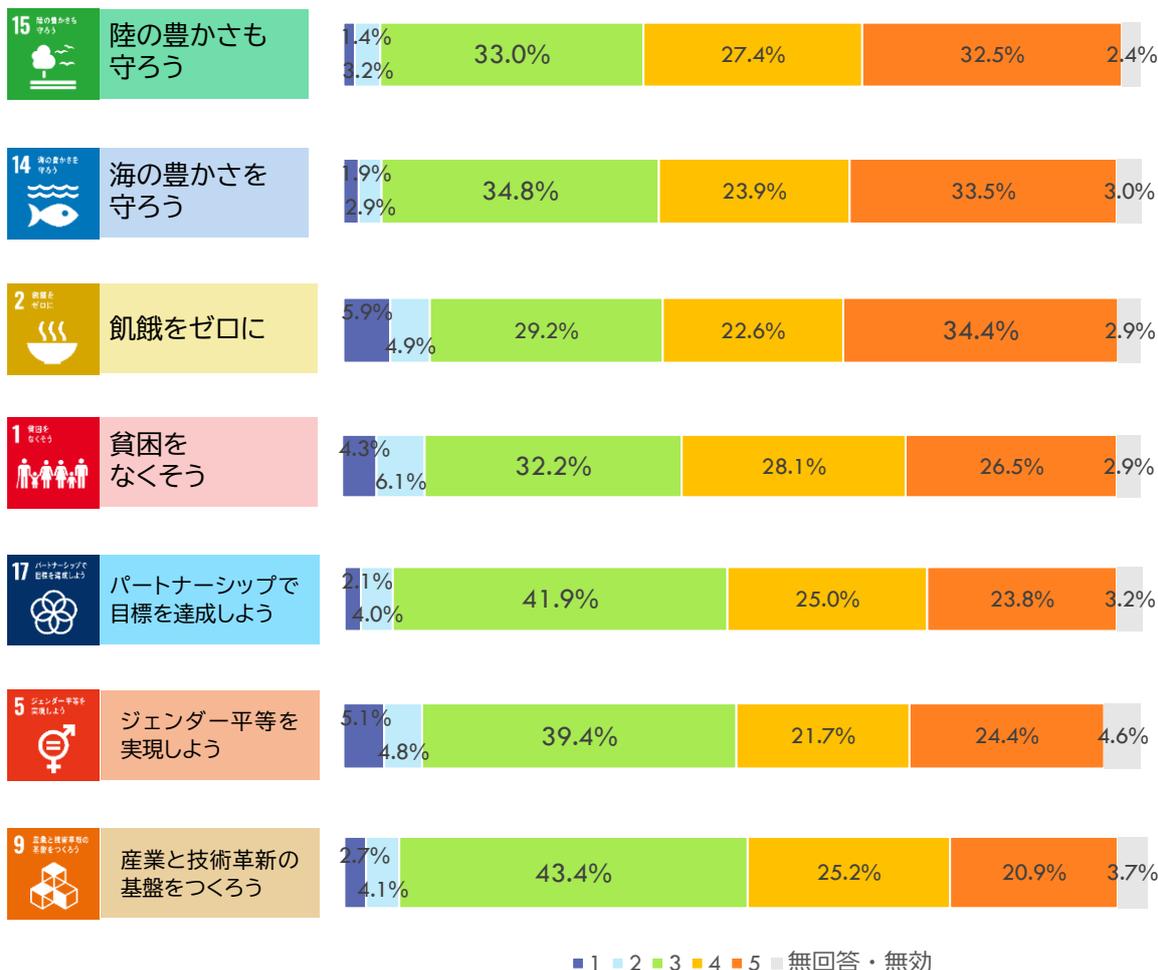
## 問 23 17の目標の関心度



17の目標の関心度の「5」と「4」をあわせた関心の高い項目は「すべての人に健康と福祉を」**70.0%**次いで「平和と公正をすべての人に」(68.7%)、「住み続けられるまちづくりを」(68.2%)とつづいている。

年齢別にみると 60 歳未満は「すべての人に健康と福祉を」、60 歳以上は「平和と公正をすべての人に」が高い傾向がみられた。





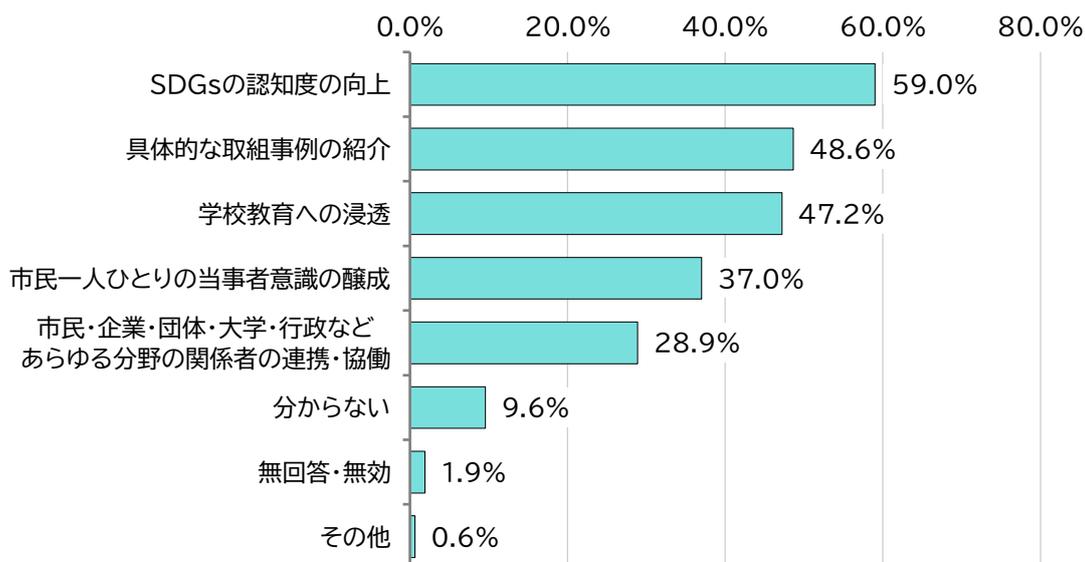
### 年齢別の順位

	1位(%)	2位(%)	3位(%)
18～29歳	③ すべての人に健康と福祉を(79.3)	⑥ 安全な水とトイレを世界中に(79.3)※同率1位	⑪ 住み続けられるまちづくりを(77.0)
30～39歳	⑥ 安全な水とトイレを世界中に(71.6)	③ すべての人に健康と福祉を(68.8)	⑯ 平和と公正をすべての人に(67.9)
40～49歳	④ 質の高い教育をみんなに(71.1)	③ すべての人に健康と福祉を(70.4)	⑥ 安全な水とトイレを世界中に(66.7)
50～59歳	⑯ 平和と公正をすべての人に(71.9)	③ すべての人に健康と福祉を(71.2)	⑥ 安全な水とトイレを世界中に(78.3)
60～69歳	⑪ 住み続けられるまちづくりを(73.2)	⑯ 平和と公正をすべての人に(69.6)	⑫ つくる責任つかう責任(資源を大切に生産・消費)(66.1) ⑬ 気候変動に具体的な対策を(66.1) ⑮ 陸の豊かさも守ろう(66.1)
70歳以上	⑯ 平和と公正をすべての人に(68.0)	⑪ 住み続けられるまちづくりを(67.0)	③ すべての人に健康と福祉を(66.0)

## 問 24 SDGs推進のためにすべきこと

SDGs推進のためにすべきことは「SDGsの認知度の向上」**59.0%**が多く回答された。

次いで「具体的な取組事例の紹介」(48.6%)、「学校教育への浸透」(47.2%)が多く回答された。



### 年齢別の順位

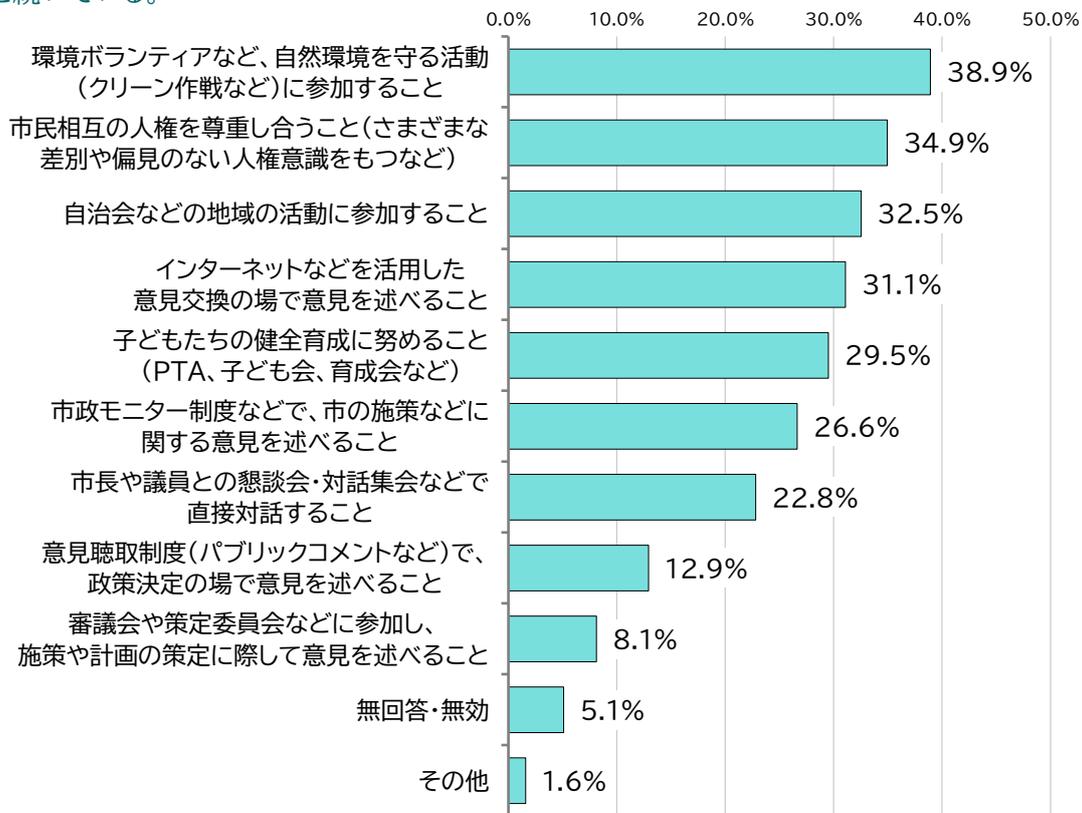
	1位(%)	2位(%)	3位(%)
18～29歳	SDGsの認知度の向上(73.6)	具体的な取組事例の紹介(54.0)	学校教育への浸透(52.9)
30～39歳	SDGsの認知度の向上(62.4)	具体的な取組事例の紹介(51.4)	学校教育への浸透(49.5)
40～49歳	SDGsの認知度の向上(54.8)	学校教育への浸透(53.3)	具体的な取組事例の紹介(49.6)
50～59歳	SDGsの認知度の向上(54.7)	具体的な取組事例の紹介(49.6)	学校教育への浸透(46.8)
60～69歳	SDGsの認知度の向上(53.6)	具体的な取組事例の紹介(44.6)	学校教育への浸透(41.1) 市民一人ひとりの当事者意識の醸成(41.1)
70歳以上	SDGsの認知度の向上(57.0)	市民一人ひとりの当事者意識の醸成(44.0)	具体的な取組事例の紹介(40.0)

# 10. 行財政・市民参加について

## 問 25 市民の立場からどのようなことができるか

市民の立場から出来ることについては「環境ボランティアなどに参加すること」**38.9%**が最も多く回答された。次いで「市民相互の人権を尊重し合うこと」(34.9%)、「自治会などの地域の活動に参加すること」(32.5%)と続いている。

年齢別にみると30～40歳代の子育て世代は「子どもたちの健全育成に努める(PTA、子ども会等)」、60歳以上は「自治会などの地域の活動に参加」が多く、各年代で身近なところでの市民参加意欲がうかがえる。



### 年齢別の順位

	1位(%)	2位(%)	3位(%)
18～29歳	インターネットなどを活用した意見交換の場で意見を述べること(46.0)	環境ボランティアなど、自然環境を守る活動(43.7)	子どもたちの健全育成に努めること(36.8)
30～39歳	子どもたちの健全育成に努めること(45.0)	インターネットなどを活用した意見交換の場で意見を述べること(44.4)	市民相互の人権を尊重し合うこと(40.4)
40～49歳	子どもたちの健全育成に努めること(37.8)	インターネットなどを活用した意見交換の場で意見を述べること(37.0)	環境ボランティアなど、自然環境を守る活動(32.6)
50～59歳	環境ボランティアなど、自然環境を守る活動(41.0)	インターネットなどを活用した意見交換の場で意見を述べること(36.0)	市民相互の人権を尊重し合うこと(36.0)※同率2位
60～69歳	自治会など地域の活動に参加すること(46.4)	環境ボランティアなど、自然環境を守る活動(44.6)	市民相互の人権を尊重し合うこと(35.7)
70歳以上	自治会など地域の活動に参加すること(46.0)	環境ボランティアなど、自然環境を守る活動(42.0)	市民相互の人権を尊重し合うこと(35.0)

## 問 26 自由意見

### 生活環境 ※一部抜粋

40～49 歳	女性	最近是不審者等の危険もあるので、子供たちの安全にもお金をつかってほしい。
50～59 歳	女性	安心、安全でみんなが暮らせる社会にして頂けることを願っています。特に子供、障害のある人が、安全で 外にいられる街にしてください。
40～49 歳	男性	通学路の朝の見守り警察、危ない運転の車が、多い。
40～49 歳	男性	空港のアクセス道路ですが、自動車優先で通学路で道路を横断する歩道に信号がなく危険に感じます。
30～39 歳	女性	ゴミ屋敷、不法投棄の取り締まり強化をお願いします。
40～49 歳	女性	空港公園から見える所にゴミ山があります。景観を悪くさせてるので撤去してほしい、また火事等も心配です。
60～69 歳	女性	道路や公園にゴミ、ペットボトルが落ちている。ゴミのないきれいな環境作りをしてほしい。
18～29 歳	女性	道路工事を頻繁にしているが、一向に進まない。明らかに、時間を伸ばしているように見える時が多い。でこぼこの道が多い。不便。最低限、交通道路の整備を迅速にして欲しい。
30～39 歳	女性	総合計画の以前に、的を絞り、まずは、死角を減らす、木を切る、街灯整備、道路整備、子供たちの通学路の安全確保等、市民のためにすることから始めるべきだと思います。
40～49 歳	女性	通学路なのに歩道がない所は危険なので早急に歩道をつくってほしい。中学生も登下校にバスを使えるようにしてほしい。
40～49 歳	女性	歩道の環境を良くして、電灯の明かりも増やして、横路ほど明るい電灯があったらいいなあと思う所もあります。
50～59 歳	女性	ガソリンスタンドの不足。道路の痛み。デコボコが多い。小川北小付近から紅葉街道付近。家が揺れます
50～59 歳	女性	生活道路周辺の美化などで、業者任せにせず、コミュニケーションを兼ねた地域の交流を進める予算があると良いですね。
70 歳以上	女性	下吉影小学校付近の歩道の桜並木の根が盛り上がりすぎてしまい通学する子供や散歩をする高齢者がケガする恐れがあり危険です。整備をお願いします。
40～49 歳	男性	各家庭の下水道の整備、家畜の飼育に関する害虫の発生撲滅、及び家畜のし尿処理方法の改善。
40～49 歳	男性	小学生、中学生、高校生の登校、下校の安全の確保の、強化。
40～49 歳	女性	公共下水道布設が未だ行われていない。住みやすさと言うならば、住民の公衆衛生は最低限だと思う。整備を最優先にしてもらいたい。
50～59 歳	男性	常磐自動車道千代田石岡 IC に有る茨城空港誘導看板を撤去し、小美玉スマート IC に全て誘導する。
50～59 歳	女性	道路の整備、茨城空港に向かう道ばかりではなく、各自宅前の狭い道の整備。
60～69 歳	女性	新しい道路が増え(例、メロンロード、茨城空港への道路)。道路が多過ぎる。便利になったが以前の道路を使用していた者には逆に遠くなったり等で不便になった。
70 歳以上	男性	路上塵が目立つ、高齢者を雇用し、看視・清掃をお願いしてはいかが。自転車の交通ルールが守られていない(各年齢層)。小・中・高校においてルール順守を警察に講習をお願いしてはいかがか。

公共交通 ※一部抜粋		
18～29 歳	男性	おみたんバスを通学時間にあわせて高浜か石岡へ接続して欲しい。
30～39 歳	男性	高齢化も進んでいっている中で、公共交通機関の貧弱さが目立つ。車が無ければどこにも行けないような地域に住んでいる人が大半なのに。
40～49 歳	女性	小川、玉里は電車も無くなり、バス停が あっても本数がないなど、町中ばかりにしか無い、年寄りには大変だと思う 車がないと不便な所が問題
40～49 歳	男性	石岡駅から、茨城空港までの電車の復活
60～69 歳	女性	空気を運んでいるコミュニティバスは医療センターを核として路線を組むなどニーズに沿ったルートにすべし。
70 歳以上	女性	コミュニティバスについてですが、一度乗車してみました。羽鳥駅から一周しましたが、2人だけ利用される方がいました。その方にとっては便利で助かるかとは思いますが、それはデマンドタクシーでも対応できるのではないかと思います。

自然環境 ※一部抜粋		
50～59 歳	男性	メガソーラーの設置にあたり休耕地の利用を推進し、森林伐採をメガソーラー設置をしない様にして欲しい。
70 歳以上	男性	小美玉市の自然環境を再確認。関東地区では、これだけ恵まれた地域は少ない。
30～39 歳	男性	今あるモノを大切にす 自然を守る取り組み
40～49 歳	女性	今の子供達が大人になり、この地がふるさととなった時、良い意味で昔と変わらないほっとする景色や自然をなるべく多く残していただきたい。
40～49 歳	男性	外国人に土地を売らない ソーラー設置は環境を壊してる。
60～69 歳	女性	自然エネルギーを活用した太陽光パネルで行政機関は積極的に使用(利用)を進めるべきかと。(市役所、学校、病院などの公的機関から…)

産業 ※一部抜粋		
70 歳以上	女性	台風等での災害の少ない玉里地区は企業誘致に適している、半導体産業等。霞ヶ浦から眺める筑波山はすばらしい、自転車等で来た人の休憩場所等が出来たら。地産地消、れんこん料理が買える場所、れんこんの天ぷら、きんぴら、煮物がすぐに見える場所。
60～69 歳	女性	小美玉市「名産」を一つでも作り上げ全国に知られる工夫が必要。
50～59 歳	女性	そららについて 日用品、食料品、本や花なども買える。広いスペースで市内外の人達が一日中いても飽きない施設、何度も訪れたい公園になって欲しい。
40～49 歳	男性	ヨーグルトの積極的に PR、販売強化、美味しいので、販売を多くして、単価を下げたい。特産品の PR を絞り込み、市としての 1 番の売り売り込む。
30～39 歳	男性	若い人が遊べる場所が無さすぎる ショッピングの場や、ジムを兼ねた総合施設などがあってもいいと思う。空港周辺も、そららだけでは行く事はなくもったいない アウトレットと見たいなものあるといい。
40～49 歳	女性	また商業施設が少なく、他市へ出向かないと用が足せない事があり不便。
50～59 歳	女性	東京などにはある、公園など、ちょっとした人が集まれる所がなく、年代の違う人どうしが、話せたり出来る場所があってほしいです。
40～49 歳	男性	牛乳で乾杯とかヨーグルト、プリンなど地産食材のPR素晴らしと思います。
30～39 歳	女性	茨城空港周辺の活性化や施設の充実期待しています。駅ができると市街地に移動しやすくなる利便性がありますし、本屋やスポーツ施設、カラオケ施設などの娯楽施設があると他の市に移動せずに市内で過ごせ、より魅力があがるなと思いました。

40～49 歳	女性	ゴミ処理場などに、安価な温泉とスポーツジムを作って欲しい 広大な敷地を確保して、今までにない野菜とお肉の直売所と温泉と宿泊施設とバーベキュー場
40～49 歳	女性	トレーニング施設と温泉施設などの建設で足腰からくる衰えの防止や人と集まる事で認知症の予防にもなるので、是非とも検討して下さい
70 歳以上	女性	個人商店を、一ヶ所の総合商店街にする。例えば、小川北中付近の茨城空港アクセス道路両側に市で、テナントを建てる。
30～39 歳	女性	こどもたちがのびのびと遊べる遊具がたくさんある公園がほしいです
30～39 歳	男性	航空自衛隊百里基地と共同で小美玉市をアピールする事業 例:航空祭等の広報イベントでの共同企画、小美玉市の SNS で基地を紹介してみる等々

### 子育て ※一部抜粋

40～49 歳	男性	学校のリモート推進。
70 歳以上	男性	国際指標と国内指標を確認して次の時代を担う子供たちの育成を図る。
18～29 歳	女性	公立幼稚園の3年保育化が進められないのは何故なのか。ニーズはあるはず。
30～39 歳	女性	子育て世代の人口が増えるといいと思う。しかし、子供のいる地域に偏りがある。気軽に歩いて行ける公園がない。幼稚園が選べるほどない。小学校、中学校が遠い。
30～39 歳	女性	夜間に行ける病院がほしい 子供の遊び場、水遊び等できる施設を増やしてほしい 子育てしやすい環境を作って欲しい
30～39 歳	女性	子供の環境をより良くしてほしい。小美玉市にはなぜファミリーサポートがないのでしょうか？
30～39 歳	女性	子育てしにくいです。石岡や笠間市など近隣と比べても、とにかく公園が整備されていない、規模が小さくて遊ぶ場所がない。図書館も近隣の市に比べて明らかにレベルが低い。
30～39 歳	女性	結婚して小美玉市に来ましたが産科がない。出産するときの不安がかなりある！
30～39 歳	女性	小美玉市に住み始め 10 年以上が過ぎましたが、緑も多く市外へのアクセスの良さもとても満足しています。
30～39 歳	女性	子育て世代に関しては、病児、病後児の預かりが気軽に利用出来る施設や共働き家庭の延長保育、学童の時間延長(現状学童は 6 時までなので市外へ働きに出てる家庭は間に合わず利用しづらいこともあります)や、塾・習い事等の送迎サービス、学校施設内での購買部の設置、現在実施しているオンライン授業を活用した放課後オンライン相談(授業で分からなかった事を相談)などの充実を望んでいます。
30～39 歳	男性	育児支援や通学路の安全確保等に力を入れて欲しい
50～59 歳	女性	子供が遊べる公園を検討して頂きたいです。
60～69 歳	女性	子供を遊ばせる場所がないです。学校・運動公園があっても入ることはできない。公園とか遊ぶ場所に複合遊具みたいなものがあるといいかなと思います。
18～29 歳	女性	産科のある病院を作してほしい

### 福祉 ※一部抜粋

50～59 歳	女性	介護を必要とする年齢になれば、もっと簡単にそして生活に支障が出ない程度で受けられると良いかなあ…とったりします。
50～59 歳	女性	高齢者が医療を受けやすい環境、介助が必要な方が不便なく生活できる環境の整備を考えていきたいと思っています。

30～39 歳	女性	高齢者のひとり世帯で近くに家族が居ない場合の通院やお買い物等の身近な支援がその方が必要とする時に出来ないか、定期的な訪問でお話を伺うなど。
18～29 歳	女性	高齢者が増えている中で、面倒を見る人達が負担にならないようにしてほしいです。例えば、歩くのが困難で高齢者自身で手続きなどを行うことが難しい場合、代わりに家族の誰かが行ったとしても本人を連れて来なければ手続きができないことは不便。
70 歳以上	女性	買い物にしても、ちょっとした物が買える、歩いて行ける小さなお店が皆終わってしまいました。今年の夏、一人暮らしの方が自販機のある所まで歩いて手に下げて帰るのを見ました。お買い物はタクシーだと聞きました。車に乗らない一人暮らしの方に、お買い物のお手伝いが出来たらと思いました。気兼ねなく利用できるお助け隊のようなものがあつたらと思います。

### 教育・文化・スポーツ ※一部抜粋

40～49 歳	女性	子どもたちの未来、小美玉市の未来のために充実した通いやすい図書館は必要だと思っています。
40～49 歳	女性	市内の図書館の充実を望みます。特に、近年人口増加がみられる美野里地区において、駅前の空き地に図書館造設をお願いしたいです。図書館は、本を借りるだけではなく、集中して勉強が出来る自習室にもなります。ですので、市内でも比較的人口が多く、中央高生の行き来もある羽鳥地区にぜひ図書館造設をお願いします。
40～49 歳	女性	コロナの影響もあり公園などでは子供たちが遊ぶ姿が増えたり、若い人から中高年に至るまでウォーキングやランニングをしている人も増えたと思います。健康増進や人との交流の観点からもとてもいいことだと思っていますが、もう少しそういう場所が増えたり、安全にウォーキングやランニングが出来る場所(歩道の整備や街灯の整備など)が増えたりしたらいいと思っています。
40～49 歳	女性	若い人たちが小美玉市出身だということを、誇りを持って言えるまちになってほしい。小中高校生に市の魅力を教えてあげたり、若い人が市を好きになるような活動に力を入れてほしい。
70 歳以上	女性	これからの子供達にいい未来が出来るように子供の親等に対して教育・医療等を充実な補助して欲しい。
70 歳以上	女性	美野里にサッカー場の建設を再考してほしい。道路(サッカー場のための)も半端だし、少年少女のサッカー熱はあつい。
70 歳以上	女性	図書館が欲しい。

### SDGs ※一部抜粋

70 歳以上	女性	SDGs の事を今回知り良かったと思います。SDGs を皆に浸透させて下さい。1つ勉強になりました。
70 歳以上	女性	SDGs について初めて知りました。17 の国際目標、大切な事ばかりですが、私は今、身近なところで強く感じておる事は子供たちの教育です。学力の向上はもちろんですが人間としての心ではないかと思っています。幼い時から人を思いやる心、すべての基本ではないかと思っています。テレビ等で毎日報道されている事件の数々、人の命を軽んずる、人の物を平気で盗むこの頃多いような気がします。家庭教育、大切にしなければと思います。